

SUSTAINABILITY REPORT 2018

グッドホールディングスグループ
サステナビリティレポート



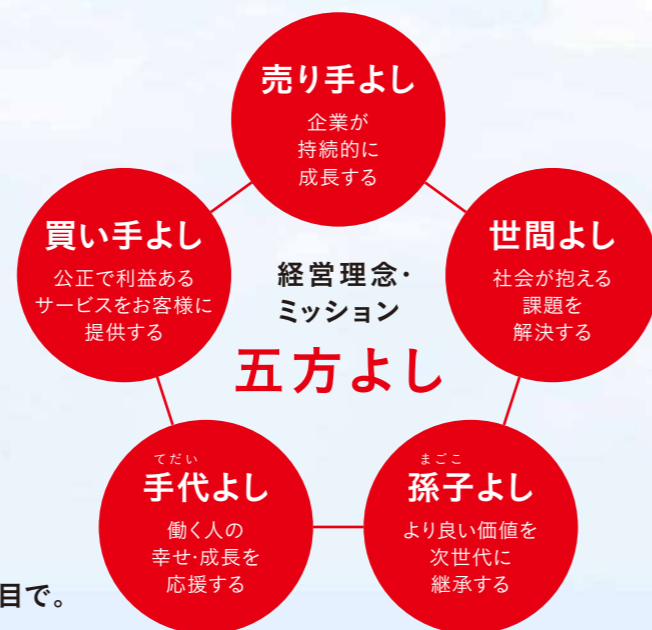
捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事は何であろうと。
どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、
わずかだけ先に、進ませるものであると信じたい。

捉えよう。そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。今あるわたしたちの姿を。



行動指針

- 1 責任とプライドを持って仕事に取り組む**
お客様から報酬をもらっている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む
- 2 自主性と協調性のバランスをとる**
「今、自分が何をすべきかを自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる
- 3 前向きにチャレンジする**
現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む
- 4 どんな状況にも適応する(適者生存 ≠ 弱肉強食)**
変化に敏感であり、過去の成功や失敗、慣習に囚われず、様々な難しい状況でも適応する努力をし続ける
- 5 適正な利益を確保する**
われわれが責任を負う人びとの期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

目次

- 01 コーポレートメッセージ
 - 03 トップメッセージ
 - 05 価値創造/SDGsについて
 - 07 グッドホールディングスグループ概要
 - 09 財務・非財務情報
 - 10 2017年度トピックス
 - 11 社員座談会 in TOKYO
- [事業紹介]
- 15 株式会社リヴァックス
 - 23 株式会社リリーフ
 - 25 株式会社ダイキョウクリーン
 - 27 株式会社大栄
 - 29 株式会社大協
- [CSR活動]
- 32 経営・ガバナンス
 - 37 環境
 - 41 人権・労働慣行
 - 47 コミュニケーション
- 54 ISO26000対照表/編集方針



グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤 健一

顧客と社会の課題を的確に捉え、 解決し、その期待を超えていく。 それが私たちの使命です。

時代の抱える「社会課題」を解決することで 日本の環境ビジネスの変革をめざす

グッドホールディングスグループの原点は、高度成長期の日本社会が直面したごみ問題を解決するために手がけた廃棄物処理事業です。その後、約60年にわたりリサイクル、リユース、清掃、おかたづけなど、その時代の抱える社会的課題を解決することで事業を展開してまいりました。「捉える、応える、超えていく」という当社のコーポレートメッセージは、現場でいち早く社会や地域の課題を「捉え」、それらを事業化することで顧客に「応え」、仮説検証とグループシナジーを通じて顧客の期待を「超えていく」という企業姿勢を表しており、それこそが創業以来一貫した当社の事業成長の軸となっています。

2015年度にはホールディングス体制に移行し、「グッドホールディングスグループ」として株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協の6社体制となりました。

2015年度からの3年間は各社が既存事業の基盤を強化し、軌道に乗せることをめざしてまいりましたが、2017年度は一度立ち止まり、さらなる飛躍のための振り返りを行い、課題の洗い出しと改善を行う時期であったように思います。その結果、事業基盤がより強固なものとなり、進むべき方向性を明確にすることができました。

私たちは、既存の環境ビジネスにイノベーションを起こし、新しい仕組みを生み出すことを事業としていますが、それは当社の持つ強みを活かし、『私たちの使命』として顧客や社会の課題を解決するという視点からのものです。

今後も、廃棄物処理の枠にとどまらず、既存事業とのシナジー効果が期待できる事業創造をも視野に入れ、企業グループとして持続的に成長していくという姿勢を改めて表明いたします。

グローバルな視点で 社会と企業の「持続可能性」を模索したい

グッドホールディングスグループは、その経営理念・ミッションとして「五方よし」を掲げています。近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、次世代への責任と持続可能な社会の構築への取り組みとして「孫子(まごこ)よし」を加えたものです。企業は「社会をよくする」責任を負っています。そういう意味では、「社会」と「ビジネス」は切り離せないものです。

次世代を担う人材には、事業基盤の強化と共に、社会のニーズを読み、新たな事業を創造していくことが求められます。そのためにも、人材の確保と育成は最重要テーマです。現在は「会社の成長」と「個人の成長・働きがい」のベクトルの一本化を図っておりますが、「働く意義を問うことができる」成熟した社会で、会社とそこで働く人がベクトルを同じくして働いていく仕組み作りが新たに必要であると考えています。そのために、2017年度には、ガバナンスの強化や人事制度の改革にも力を入れました。

2015年に開催された「国連持続可能な開発サミット」で掲げられた持続可能な開発目標(SDGs)には、エネルギー問題や環境問題なども目標として掲げられています。

当グループは、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rをグループ会社でサポートしておりますが、当社の事業をその枠組みに当てはめて考え「持続可能な社会の発展」に取り組むことで、国際社会の一員として、当社が向かうべき方向をステークホルダーのみならずと共有できればと考えております。また、社員一同、私たちのこれまでの取り組みを振り返り、改めて整理することで、より社会と密接につながり、地球環境や教育に貢献できればと考えています。

当グループは、すでにアセアン諸国での海外市場に進出してはおりますが、今後は現地とのネットワークを生かしながら、海外パートナーと一緒に社会と企業の「持続可能性」を模索した取り組みをグローバルレベルで進めていきたいと考えています。当グループの活動領域は、全国、そして海外へも広がっていきます。



グッドホールディングスグループは 事業を通してSDGs(持続可能な開発目標)の 実現に貢献しています

持続可能な開発目標(SDGs)とは、人々の暮らしを持続可能とするために国際社会が2030年までに達成すべき課題を掲げた世界共通の国際目標です。2015年の9月、ニューヨーク国連本部で150を超える加盟国首脳に参加のもと開催された「国連持続可能な開発サミット」で、全会一致で採択されました。「誰も置き去りにしない」を共通理念に、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と169のターゲットで構成されています。

国連に加盟するすべての国は、採択したアジェンダをもとに2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします。

グッドホールディングスグループは、事業を通してSDGsの実現に貢献してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



グッドホールディングスグループの取り組み

経営・ガバナンス

- サステナビリティレポートの発行
- 内部監査部門による監査
- 法令遵守
- 事業継続計画(BCP)の構築
- 従業員持株会
- 内部通報制度



環境

- 悪臭防止対策
- 水質汚濁防止対策
- 廃棄物の漏洩・流出防止対策
- エコドライブ
- ごみ排出量減量活動
- エネルギー使用量削減対策
- CO₂排出量削減対策



人権・労働慣行

- 人事考課者研修
- 公正な評価・処遇
- 人材を創る研修
- 制度にない人事の取り組み
- ワーク・ライフ・インテグレート
- 健全な労使関係
- 3S活動の推進
- 永年勤続者表彰
- ストレスチェック
- 健康診断の実施



コミュニケーション

- 施設見学の受け入れ
- JICA研修の受け入れ
- インターンシップ生の受け入れ
- こども農業塾の開催
- 企業スポーツ活動
- セミナーの開催



「社会課題」をビジネスで解決 私たちの事業の歩みと変遷

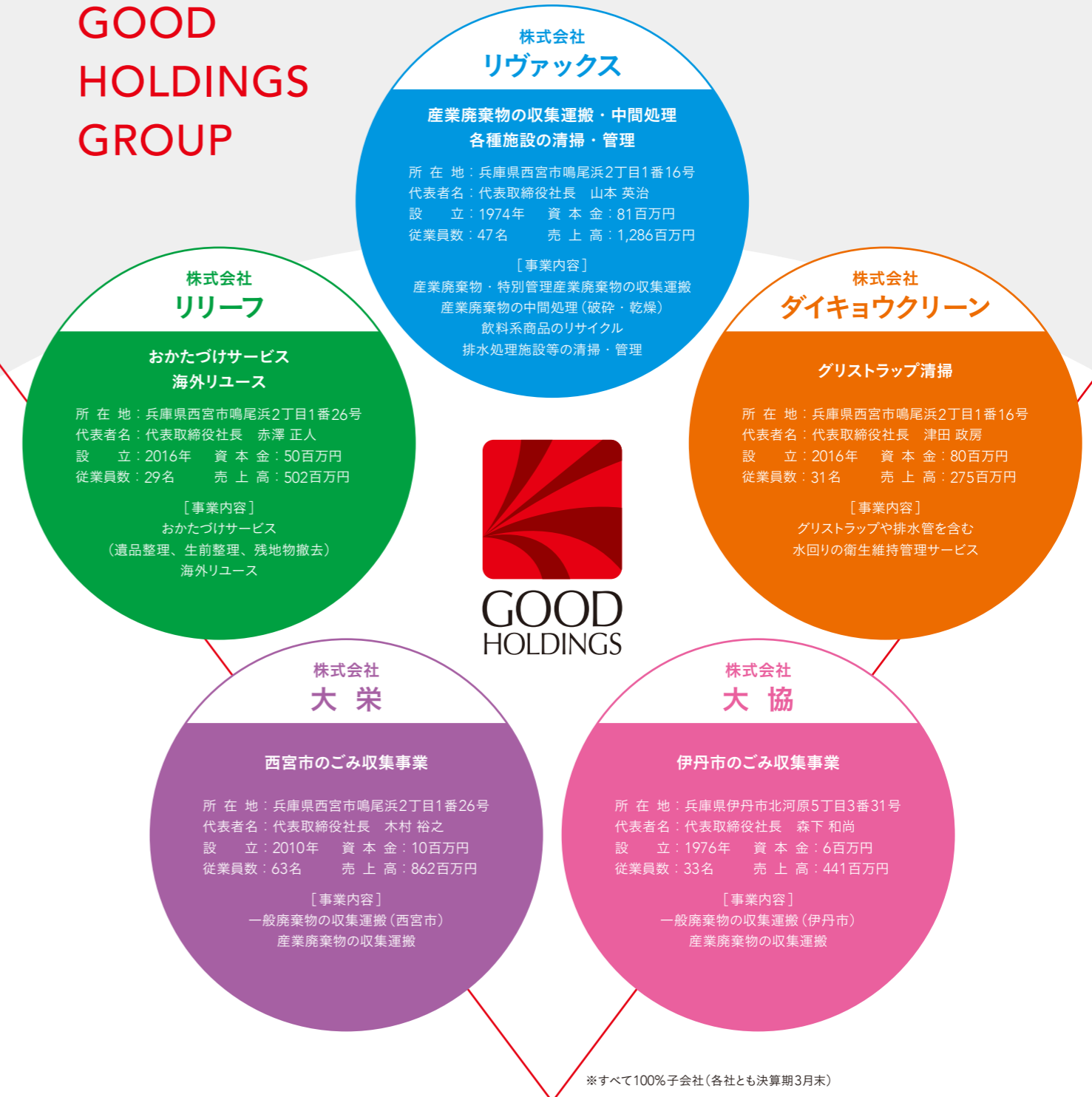
1960年に家庭ごみ・事業ごみ収集事業をスタートし、1974年には産業廃棄物処理業を開始。地球環境への配慮が世界的な課題となった2000年以降は、バイオマス燃料事業、海外リユース事業などにも事業を展開。私たちは廃棄物処理業の枠に留まらなく、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいます。

グッドホールディングスグループの歩み

- 1953 創業者が廃棄物回収業を創業
- 1968 有限会社大栄衛生を設立
- 1974 大栄サービス株式会社(現(株)リヴァックス)を設立
- 1976 有限会社大協工業所(現(株)大協)を設立
- 1984 大栄サービス(株)(現(株)リヴァックス)の処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置
- 1999 大栄サービス(株)(現(株)リヴァックス)が同業他社との協調体制(アライアンス事業)構築
- 2006 大栄サービス(株)(現(株)リヴァックス)の産業廃棄物の破碎施設をリニューアル(有)大協工業所を(株)大協に改組及び商号変更
- 2007 大栄サービス(株)(現(株)リヴァックス)の有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成同時にバイオマス燃料化事業開始
- 2008 大栄サービス(株)(現(株)リヴァックス)の廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバース・マネジメントセンター完成
- 2009 大栄サービス(株)の社名を(株)リヴァックスに変更
- 2010 (株)大協にて新規事業としてグリストラップ清掃事業開始(有)大栄衛生を新設分割し(株)大栄を設立(有)大栄衛生をリヴァックスホールディングス(株)に改組及び商号変更
- 2011 (株)大栄にて新規事業としておかたづけサービス事業開始
- 2012 (株)大栄の商号を(株)リリーフに変更
- 2013 (株)リリーフ(現(株)大栄)にて、海外リユース事業を開始
- 2014 (株)リリーフ(現(株)大栄)が関東事業所を東京都足立区に開設(株)リヴァックスにて新規事業のswell事業を開始(株)リヴァックスにてバイオマスボイラーを新設し内製化
- 2016 (株)リリーフ(現(株)大栄)を会社分割し、新たに新設した会社の社名を(株)リリーフとし、存続会社である(株)リリーフを以前の名称の(株)大栄に変更(株)ダイキョウクリーンを設立リヴァックスホールディングス(株)の社名をグッドホールディングス(株)に変更(株)ダイキョウクリーンが埼玉県三郷市に関東事業所を開設、同事業所に(株)リリーフの関東事業所を移転(株)ダイキョウクリーンが事業を開始
- 2017 グループの関東地区での拠点として東京都千代田区に東京オフィスを開設



GOOD HOLDINGS GROUP



グッドホールディングス株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
 代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
 設立：1960年 資本金：77百万円
 従業員数：10名

[事業内容]
 グループ財務・経理・人事・労務・広報、経営支援及び総合戦略の策定

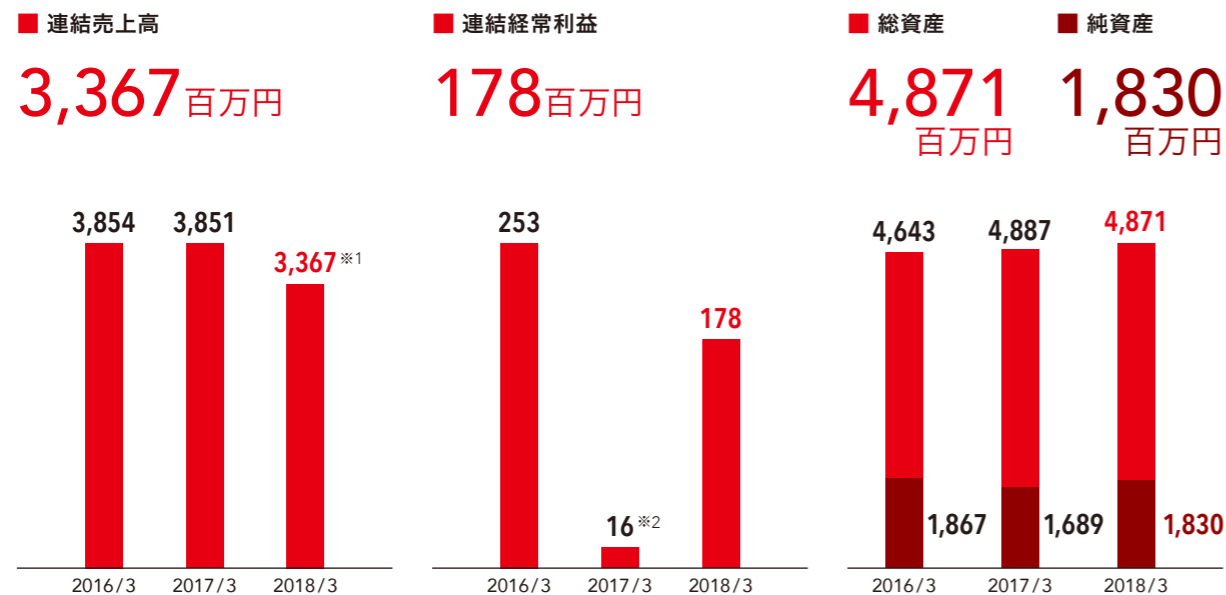
連結売上高 3,367百万円 ※1

グループ従業員数 213名 ※2

※1 単位未満切り捨て(特に断りのない場合、以降も同様) ※2 従業員数は常用雇用者(社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く)の数

財務・非財務情報

財務情報 (単位：百万円)

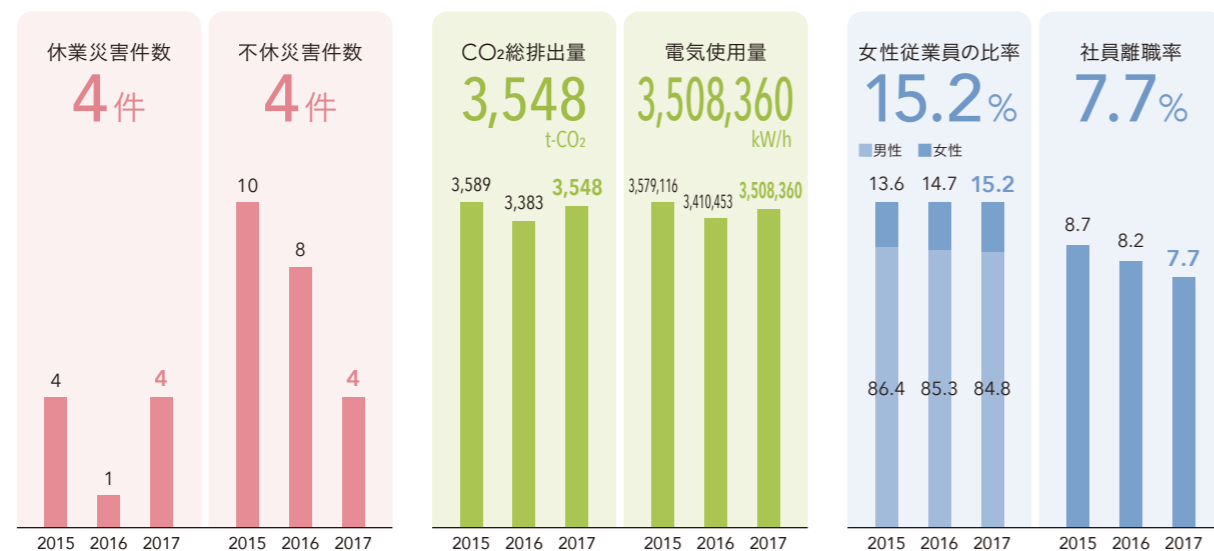


※1 「収益認識基準に関する会計基準」を早期適用し、一部の売上に対する費用を総売上から控除した純額を売上とした。この影響による売上高の減少額は894百万円。

※2 会計方針の変更により、減損処理や各種引当金を計上

非財務情報

安全 環境 働きやすさ



第21回環境コミュニケーション大賞 「優良賞」受賞

当グループが発行しました「グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート2017」が、第21回環境コミュニケーション大賞(主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム)の環境報告書部門において、「優良賞」を受賞いたしました。



メディア掲載 (大栄さくらチーム)

- ・関西テレビ「よーいドン! (人間国宝さん)」
- ・毎日放送「ちちんぷいぷい (辻憲の「コレだけ」ニュース!)」など



ホームページリニューアル

当グループのコーポレートサイトを全面リニューアルいたしました。グッドホールディングスグループの取り組みをより知っていただくため、また、より多くの方々に快適にご覧いただくため、スマートデバイスでの閲覧にも対応し、サイトの使い勝手と見やすさに配慮した構成となっております。



セーリングチーム 関西実業団ヨット選手権 三連覇

7月8日～9日に兵庫県の新西宮ヨットハーバーで開催された「関西実業団ヨット選手権」にて、グッドホールディングスセーリングチームが三連覇を達成しました。

2017年度 こども農業塾 開催

- 第1回 開校式・トウモロコシの苗付け・玉ねぎの収穫・田植え
- 第2回 田んぼの観察・ピーマンの収穫・トウモロコシの収穫・川の生き物観察
- 第3回 稲刈り・夏野菜の収穫・大根の種付け・作品づくり
- 第4回 サツマイモ収穫・野外調理
- 第5回 冬野菜の収穫・作品づくり・しめ縄づくり・修了式

過去の受賞・顕彰歴

- 2016年度 「第20回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
「環境 人づくり企業大賞2016」大企業区分 優秀賞
「シニアビジネスコンテスト2016」最優秀ビジネスプラン賞
「兵庫県体育協会表彰式」兵庫県スポーツ優秀選手賞(国際大会)セーリングチーム
- 2015年度 「第19回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
「平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞
- 2014年度 「環境 人づくり企業大賞2014」奨励賞
「第18回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞
- 2013年度 「第17回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞
- 2012年度 「西宮商工会議所創立70周年記念：環境経営特別賞」
「CSR2プロジェクト」コンプライアンス部門 環境省産業廃棄物課長賞
「第16回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞
- 2011年度 「西宮市優良事業所顕彰～NISHINOMIYA APPLIED PRIZE～」
「第15回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞部門 優良賞

今年度のサステナビリティレポートは、新卒採用の5名が制作を担当しました!

株式会社リヴァックス	株式会社リヴァックス	株式会社リリーフ	株式会社ダイキョウクリーン	株式会社大栄
石原 諒子	萬代 美有	上村 健太	本間 日菜子	小山 翔也
実際に制作に参加し、各社の特徴と強み、グッドホールディングスグループとしてのまとまりを意識することができ、社員としてのこれからの在り方を考える良い機会になりました。	会社の環境に対する取り組みやデータを実際に自分の手で作成することで、一層会社について学ぶことができました。自分が考えた文章が冊子になるという経験が初めてで何となく気恥ずかしい思いです。	一つの冊子を制作するのに沢山の工程や、沢山の人の協力があって完成する事を学びました。仕事においても周りとの協力は必要不可欠で、配属先は違えど同期と一緒に仕事ができ良い経験になりました。	新入社員でサステナビリティレポートの制作という、貴重な経験をさせていただきたくも光栄です。この経験を活かして、これからもより一層精進していきたいです。	グループ全体の取り組みや活動を知る良い機会となりました。また、入社後の配属先の違いで顔を合わせる機会が少ない同期とも共同作業ができ、仲が深まりました。

私たちが、関東市場を切り拓く!

関東市場での事業拡大をめざすグッドホールディングスグループ。
新たな市場を開拓すべく関東に赴任し活躍するメンバーに、そのミッションとやりがいについて聞きました。



株式会社ダイキョウクリーン

坂田 謙二

1993年、株式会社大協入社
2016年、株式会社ダイキョウクリーンに転籍



株式会社ダイキョウクリーン

伊藤 隆

1997年、株式会社リヴァックス入社
2016年より株式会社ダイキョウクリーン取締役



株式会社リリーフ

古本 真一郎

2004年、株式会社大栄入社
2016年、株式会社リリーフに転籍



ファシリテーター

グッドホールディングス株式会社

常勤監査役 八鳥 尚志

株式会社ジャフコを経て2017年4月より現職

グループの全国展開を視野に 関東での事業を推進



八鳥 関東での市場開拓というミッションを背負って関西から赴任され、現在関東で活躍中のみなさん。まず仕事内容をお聞かせください。

伊藤 私はダイキョウクリーンの関東事業部の責任者をしています。ダイキョウクリーンは関東に進出して丸3年経ちますが、「市場の広い関東で事業基盤を作り、成長させていく」ことをミッションとして、東京で修行させていただいています。

坂田 ダイキョウクリーンは主に飲食店などのグリストラップ清掃を行っています。私はバキューム車の配車、そして請求関係以外の業務全般に携わっています。

古本 私はリリーフに所属していて、関東のおかたづけ事業部で責任者をしています。リリーフの場合は見積もりから契約、実際の作業までを同じスタッフが行うという流れを取っています。

なので、私も基本的に営業から業務まですべてを行なっています。ここ数年でスタッフも増えてきて、今後は地盤作りさえできれば事業は伸びていく流れになります。早く関西の売り上げを抜きたいですね。

八鳥 みなさんは、関西に基盤のある事業を背負ってよいよ関東に進出という時期に「先兵隊」として東京に生まれ、今、ようやく成果が出てきている段階ではないでしょうか。手応えはいかがですか。

伊藤 手応えはかなり感じています。新規のお客様が大半ですが、やればやるだけ取引が増えていきます。関東事業部は、昨年度下半期にスタッフが増えたこともあり、前年比200%の売り上げを達成しました。営業も現場に出て、現場の人はより生産性を上げて…みんなが本当に頑張ってくれたと思います。本気でやっているからこそ、結果が出せているのは嬉しいです。

坂田 正直、最初の1、2年は収支表を見るのも嫌なぐらいでした。仕事も少なかったです。それを思えば、ここ最近目標を達成できているので相当やりがいはあります。

八鳥 リリーフもかなり数字をのばしてきていますね。関西と肩を並べるほどです。

古本 私たちの業務は、依頼主の方が困ってどうすること

もできない状況をお手伝いしているということもあって、実際の作業以上に感謝していただけます。そういうこともやりがいに感じて日々仕事に邁進してきました。その結果、関東に来て、はじめは月間の売り上げが150万、200万だったところから、1,000万、2,000万まで持って行けるようになりました。年々目標もクリアして、数字は後からついてくることを実感しています。ようやくここまで来たかと。

やればやるだけ結果が出る市場 仕事のやりがいは大きい

八鳥 関西でバックグラウンドがあったと言っても、関西と関東でお客様の資質も違う、土地勘もない。そのようなところから事業を軌道に乗せるまでには相当な苦労があったかと思います。

古本 関西と関東との違いで言うと、リリーフの場合、関東に進出した当初は受注金額の差がありみんな戸惑ってました。関西と関東では処分費の単価が違うので、同じような案件でも見積もり書を作ると関西の1.5倍から2倍になります。関東のことがわかればそれが適正価格だと認識できるようになるのですが、関西の感覚ではどうしても「高い」と思ってしまうんです。

進出当初はそういった難しさもありましたね。

八鳥 なるほど。おかたづけをして回収した不用品の処分費が関東の方が高いために見積もり金額にそれが反映されてしまうと。

古本 そうです。しかし、そこでリリーフの「リユース事業」が大きく生きてくることもわかりました。

「リユースしているから処分費がコストダウンできる」というメリットが、単価が高いぶん数字でお客様にお見せすることができます。

伊藤 新しい市場で勝負する大変さは今でもあります。ゼロからのスタートでも、やったぶんだけ結果が出せるからこそ、みんな熱意を持って頑張ってくれているんだと思います。

八鳥 なるほど。営業が頑張るぶん、現場も大変だと思いますが、坂田さんはいかがですか。

坂田 夢にまで東京の地図が出て来ます。四六時中いかに効率よく配車するかばかり考えているので。飲食店のグリストラップの清掃は、基本的に作業ができるのは閉店後から店員さんがおられる限られた時間帯です。多くの店舗が夜の12時前後に終





わるので、その辺りの時間帯に作業が集中してしまうんです。1ヶ月は30日しかないのに、その時間だけに集中するとこなせる作業件数が限られてしまいます。そこで、店舗の方がおられない時間帯にも作業できるようお客様に相談の上、鍵をお預かりしたり、作業時間を調整させていただいたり他にもいろいろと。ちょっとしたことですが、小さな工夫の積み重ねで効率はずいぶん上がりました。

八鳥 さすが、ベテランの坂田さんが現場の効率を考えてくれているからこそ、効率よく作業件数がこなせるんですね。

伊藤 本当にそうです。4件まわるとグリストラップ汚泥が車両に載り切らないときがあるんです。そういうことまで予測して、途中でグリストラップの小さい店舗をはさんで作業件数を5件、6件に増やすなど、かなり綿密に考えてスケジュールを組んでいます。

坂田 お客様にも協力していただいています。予定を1ヶ月以上前に決めるべきところをギリギリまで待っていただいたり。効率を優先して直前に予定が変わることもあるので現場のスタッフは大変だと思います。「また変わったー」という声が聞こえて来そうです。

伊藤 スケジュールを見ると、変わった理由もわかるので現場は納得していると思いますよ。坂田さんがやってくださっているような小さな努力の積み重ねが業務の生産性向上につながっているように思います。

坂田 そう言われるとプレッシャーです(笑)。

課題は人材の採用と育成 新人教育にも尽力

八鳥 事業拡大に伴って、人材の採用や教育も必要になってくると思います。その点はいかがでしょう。

坂田 現在入社して1年に満たない社員が4名いるのですが、彼らの成長を見るのはとても嬉しいです。まじめでおとなしい子が多いのですが、最近は冗談も言うようになって。いずれは彼らも1人で現場に出て、どんな仕事でも任せられるようになると思います。

古本 リリーフのメンバーは営業から業務まで守備範囲も広いので、わからないことはどんどん自分から聞いてほしいと伝えています。常にどうすればいいか自分で考えてこそ仕事は覚えられますし、楽しさも出てくると思います。

八鳥 先輩の技を盗むということが大事ですね。

伊藤 私も採用の面接でよく言うのですが、関東はまだ人数が少ないため、ひとりひとりが主役になれる環境です。やりがいも大きいですが、そのぶんシビアですし、受け身では難しい。新人には自分から前に出てきてほしいですね。遠慮せず、どんどん自分からがついてほしいです。

事業基盤を確立し、 関西を凌ぐ組織をめざす

八鳥 東京オリンピックも控えていますし、ますます関東の勢いは増しそうですね。みなさん、近い将来成し遂げたいことや展望は?

伊藤 関東単独で採算を取れるようにするのが第一目標です。



その延長線に関西に追いつき、追い越すことがあります。追い越さなければならないマーケットに身を置いていますし、それがダイキョウクリーンの成長に貢献することになると考えています。

八鳥 近い将来、関西を追い抜いてしまうと。

伊藤 そうですね。そのためには、人材不足という課題もあるので、採用活動なども積極的に行っていきたいです。あとは、関東はエリアが広いので順調に仕事を増やして効率を上げるという意味で拠点を増やせたら。

坂田 関東支店を本社にしたいぐらいに思っていたのですが、だんだんできそうだと現実味を帯びてきました。これからまだまだやりがいが出てきそうです。

八鳥 売上げも上がり、人材も育ててきている。関東を支店のままとするのではなく、本社を関東に持ってきてくださいよと(笑)。

坂田 はい、関西の人が「入れてくれ!」と言うぐらいの会社になりたいです。

伊藤 みんなそれぐらいの心意気でやっているから、勢いがあるのだと思います。

古本 リリーフは関西に売上げは近付いてきましたが、需要的には倍になってもおかしくないマーケットだと考えています。マンパワーさえあれば効率も上がるので、人を増やせるだけのしっかりした基盤を作りたいです。そして、関東単独で事業を行える体制作りも考えています。例えばリユース事業。現在は関東で回収したものを神戸港に輸送して海外に輸出していますが、横浜港から輸出することができれば。

八鳥 なるほど。関西に依存している部分をなくし、関東で仕事を完結させるということですね。古本さんは、2018年度からは責任者として名古屋に赴任されますね。

古本 はい。名古屋でも、事業所の立ち上げに携わらせていただくことになりました。期待に応えて、関東同様に、早期に体制を整えていきたいと思っています。

八鳥 では少しプライベートについても伺いましょう。関東の生活、みなさんいかがですか。

伊藤 私は家族と離れて単身赴任をしていますが、ひとり暮らし経験もあったのであまり苦ではないです。仕事に集中できるので仕事環境としてはいいです。月1回は家族の顔を見に関西に帰っていますし、家族もたまに東京に遊びに来たりもしています。

坂田 私は、親元から初めてのひとり暮らし。最高です!

古本 私も、関西から関東に来たときに何の違和感もなかったですし、すんなり馴染めました。

八鳥 最後に、本社のみなさんにメッセージをお願いします。

伊藤 今年度は新入社員も育ててきており、次のステップもみえてきました。みんなで頑張っていますので、関西から見てください! 何か大きく花開くので!

坂田 関東は市場も大きく、これからまだまだやりがいが増えそうです。頑張ります!

古本 リリーフはまだ体制的には関西に追いついていない部分も多いので、関西でできていることをひとつひとつ関東でも名古屋でもできるようにしていきたいです。そして、強いて言うならプライベートでたまにはみんな遊びに来てほしいなということですね。親睦を深めたいです。

八鳥 今日はみなさんありがとうございました。体調に気をつけてこれからもよろしく願っています。



そうなれば、
東京に家族も呼び寄せて。

まだまだ業績を伸ばして、
東京を本社にしたいです!

みなさん、勢いあって
頼もしいですね。

東京は大きなマーケットなので、
やりがいがあります。

GOOD HOLDINGS

GROUP in TOKYO

株式会社リヴァックス

循環型社会に貢献する環境プラント



株式会社リヴァックスは、産業廃棄物のリサイクル事業や工場・インフラに特化した清掃サービスを行なっています。飲料においては100%のリサイクルを実現しているだけでなく、バイオマスボイラーを導入することでCO₂の排出も軽減する地球環境にも優しいシステムを完成させました。

バイオマスボイラーの導入で二酸化炭素排出量を大幅に削減



TOP MESSAGE 株式会社リヴァックス 代表取締役社長 山本 英治

株式会社リヴァックスは、世の中を支えるリサイクルの構築のため、積極的に設備投資、人材投資、労働環境整備を行っています。バイオマスボイラーの導入により、リサイクルとCO₂排出軽減の両立に一步踏み出しました。今後も、お客様にご満足いただける成果を残せるよう、法令遵守・情報公開を徹底し、日本で一番遵法性と透明性の高いビジネスの構築をめざしてまいります。

資源循環と再生可能エネルギーづくりに貢献する

飲料系廃棄商品の100%リサイクルを実現

当社は、破碎、乾燥の2つの処理設備とリバース・マネジメントセンター（積替保管倉庫）を保有しており、独自のリサイクルシステムを実現しています。

食品工場、加工工場から排出された汚泥や動植物性残さなどは、乾燥処理をし、バイオマス燃料へとリサイクルされます。また一部は肥料の原料として利用され、その農作物はやがて食品工場や消費者の食卓へ、循環を生み出しています。

期限切れや破損、ラベル不良等の理由で販売できなくなった「飲料系廃棄商品」は産業廃棄物として回収し、一時保管ができるリバース・マネジメントセンターへ。そこで荷下ろし、開梱、

飲料とダンボールの分類等の前処理工程がなされます。その後、破碎機、廃液処理設備を組み合わせた処理フローにより、容器と内容物の100%リサイクルを提案しています。

当社は飲料製品の処理においては年間約10,000トンと、日本最大クラスの実績があり、日本有数の飲料メーカーを含む多数の会社の廃棄処理を行っています。飲料を含む食品は食品リサイクル法によって高いリサイクル率が求められていますが、当社の処理フローでは、食品リサイクル法で求められるリサイクル率の達成に貢献することができます。

リサイクルシステムを支える設備を積極的に導入

二酸化炭素排出量を大幅削減するバイオマスボイラー

当社の「バイオマスボイラー」は、建築廃材を燃料としています。リサイクル施設を従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しました。また、廃棄物の貯留ピットと各処理工程から発生する高濃度臭気を、ボイラーの燃焼用空気として利用し脱臭します。当社では、2016年度にこのバイオマスボイラーを導入したことで、年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。これにより、環境にも配慮した本当の意味での「リサイクルシステムエネルギーメーカー」に一步を踏み出しました。

■ バイオマスボイラー導入効果

導入前 (H25年度) 化石燃料の大量使用
二酸化炭素排出量 5,159トン-CO₂/年

導入後 (H29年度) 木質チップバイオマスボイラーにより
都市ガス使用量の削減と電力使用量増加抑制
二酸化炭素排出量 1,951トン-CO₂/年

大量の荷受に対応するリバース・マネジメントセンター

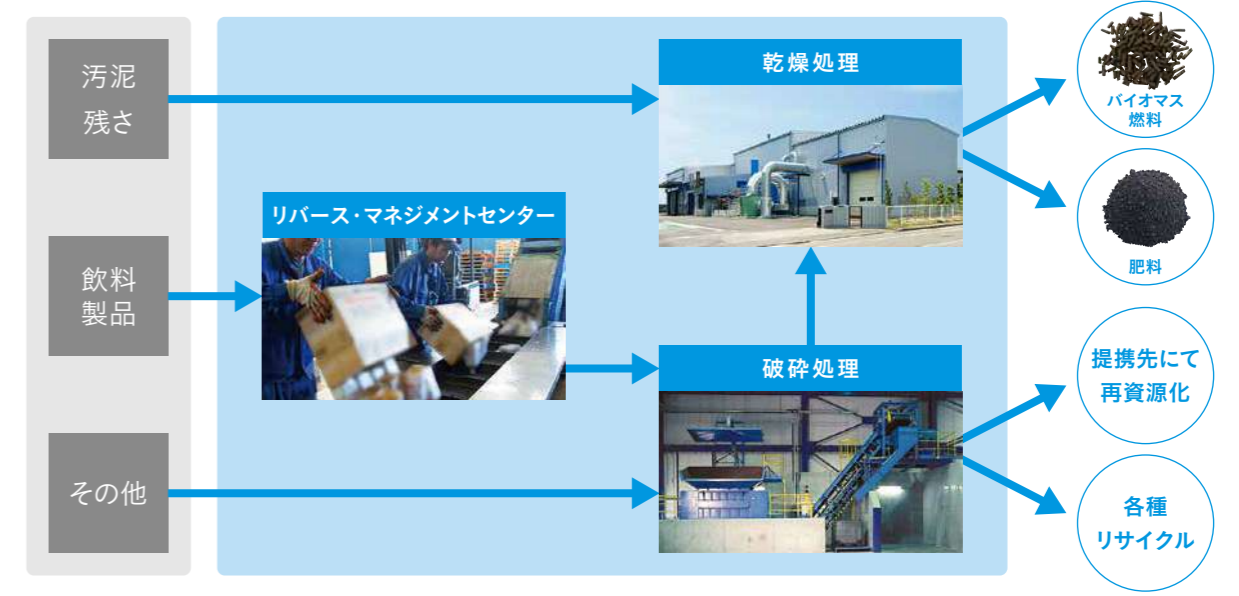
リバース・マネジメントセンターは、廃棄される飲料系製品専用の保管施設です。ここで荷下ろしから開梱・分別といった前処理工程が行われます。

周辺地域への環境配慮として脱臭装置を備えています。同時に、会社名・ブランド名が入った商品の不正流出防止対策として24時間のセキュリティ対策を講じており、安心して廃棄製品を預けていただけます。



施設概要 保管容量：735㎡未満 保管面積：264.6㎡未満
保管品目：廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリ、汚泥、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず、動植物性残さ

リヴァックスのリサイクルシステム



お客様や地域に貢献できるリサイクル企業でありたい

阪神最大級の乾燥処理プラントで 運搬コスト削減にも貢献

リヴァックスのリサイクルのもうひとつの強みは、汚泥・動植物性残さなどの有機性産業廃棄物のリサイクルプラントとしては阪神間最大級の処理能力(100t/日)を保有していることです。

都市部近郊型で産業廃棄物を処理するにあたっては、その社会的影響を十分に理解し、廃棄物やその臭気の漏洩を防ぐための設備を整える必要があります。

当社では、バイオマスボイラーや薬液洗浄装置の導入等、徹底した臭気対策を行うことで、都市型施設を実現、維持しています。

都市型施設は、顧客にとっては廃棄物の移動距離を最小限にし、廃棄物処理場への運搬にかかるコストとリスクを削減できるというメリットがあります。また、廃棄物の処理時に発生する熱を再利用するシステムなどを採用することでエネルギー効率を高め、周辺地域の環境負荷低減にも努めています。

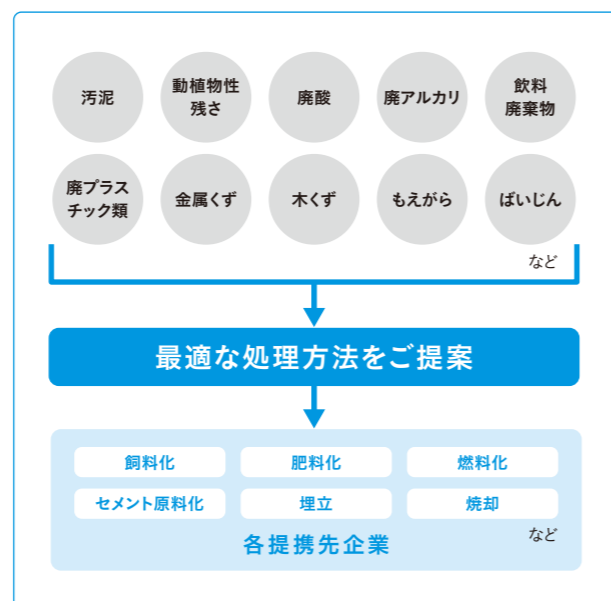


乾燥機施設概要
処理方法：連続油温減圧乾燥方式(油炒め方式)
処理能力：90.9m³(約100t)/日(24時間稼働)
処理品目：汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ
環境対策：バイオマスボイラー、薬液洗浄装置

さまざまなリサイクルニーズに ワンストップで対応

さまざまなリサイクルのご相談に対応するため、最適な処理方法の提案と優良な処理業者を紹介する「アライアンス事業」も好評をいただいています。適正処理はもちろんのこと、当社の豊富な取扱実績をもとに、多種多様な廃棄物に対し、性状や処理コスト、安全性の観点からはもちろんのこと、顧客のニーズに合わせた最適な処理会社を選定し、提案しています。産業廃棄物は、処理できる廃棄物が業者によって異なります。当社では自社の処理プラントや積替保管施設、提携業者をうまく活用することで顧客からのさまざまな廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応できる体制を整えています。

リサイクル率を向上させることは、法律で規定される目標の達成だけではなく、企業としての社会貢献度を向上させることにもつながります。当社は、リサイクルを通して企業の社会貢献をサポートしたいと考えています。



超強力吸引車と超高压洗浄車で、 工場の環境インフラの機能維持に貢献

工場の排水処理施設や配管、タンク等の清掃を高機能な吸引車と洗浄車で行うことで、設備の機能維持はもちろんのこと、人海作業によるリスクの軽減や周辺地域の環境負荷低減等にも貢献しています。

swell事業は、「廃棄物の処理だけではなく、適切な工場の操業のために工場内設備の維持管理のサポートもしてほしい」という顧客からの要望から生まれた事業です。

排水処理施設の機能維持や配管、雨水側溝の適切な水流確保、堆積物による悪臭や害虫の発生予防など、工場の環境負荷軽減のための取り組みに対し、目的や場面に合わせた作業のご提案を行っています。

また、swellでは、日本に数台しかない国内最大級の吸引風

量を保有する超強力吸引車を3台導入しており、その圧倒的な能力で、清掃作業時間の短縮や作業人員の削減など作業内容の改善を実現しています。

超強力吸引車の活用により、100m近くの深い地下から吸引できる、太いホースが使用できるためレンガくずなどの大きな塊も吸引できるなど、これまで不可能であった作業が可能になるケースも多く、今後はさらなる用途開発の可能性が期待されています。

「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1

提案

顧客(製造工場・プラント工場・土木工場)に低コスト・工期短縮を提案

2

作業

ほかでは困難な作業(高揚程・高比重)を含め、排水処理設備や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート。(設備の機能回復)

3

アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表(マニフェスト)の返却、次回作業の提案。

TOPICS



関西大学第一中学校で環境学習を行いました

2017年6月27日、中学2年生約250名対象にコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と協働で環境学習を行いました。コカ・コーラ社からは飲料容器のリサイクルをはじめとする廃棄物に関する問題について、リヴァックスからは廃棄される飲料製品のリサイクルについて説明しました。7月13日には当社リサイクル施設を見学いただきました。この学習を通して、環境問題について自分たちができることを考える第一歩になればと考えています。

環境負荷低減の取り組み

産業廃棄物のリサイクル率

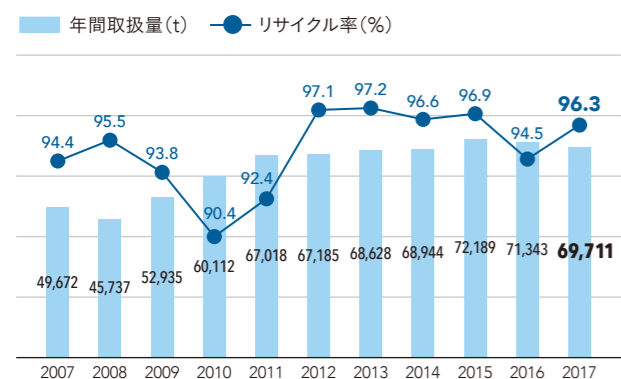
90%を超えるリサイクル率を維持しています

リヴァックスにおける2017年度の産業廃棄物取扱量とリサイクル率は下のグラフのとおりです。破碎施設がリニューアルした2006年、乾燥施設を設置した2007年より90%を超えるリサイクル率を保っています。

限りある物質資源の有効活用のため、また、貴重な産業資源である埋立処分地の延命のため、そして、産業廃棄物のリサイクルに取り組むお客様のご要望にお応えするためにも、自社内での選別や提携先との連携をさらに推進してまいります。

※リサイクル率は、年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表す。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

汚泥・残さ・ 廃液の 乾燥処理	阪神間最大級の リサイクルプラント	▶ 100t/日
	安定した稼働実績	▶ 36,000t/年
廃プラスチック・ 金属の 破碎処理	1日の処理量	▶ 50t/日
	多種類の許可	▶ 8種
	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃プラスチック類 ● 紙くず ● 木くず ● 繊維くず ● ゴムくず ● 金属くず ● ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず ● がれき類 	混合物 受入 可能
廃棄飲料の 処理	飲料処理実績 日本最大クラス	▶ 8,000t/年
	保有量	▶ 300パレット 食品リサイクル法に対応

処理センターのエネルギー使用量

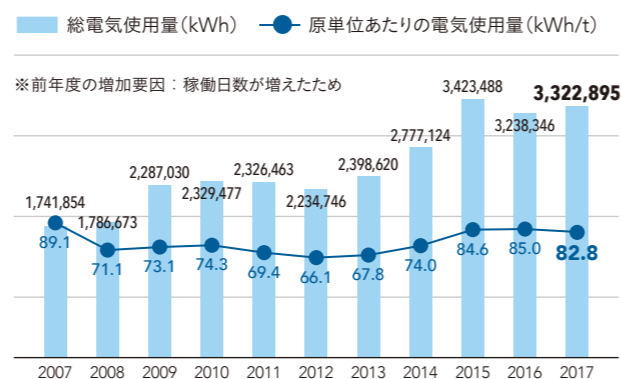
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター（破碎・乾燥施設）では、電気・工業用水・都市ガスのエネルギーを使用しています。

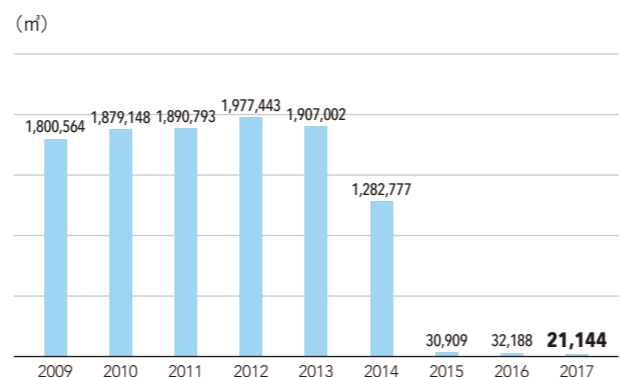
2017年度の電気使用量は3,322,895kWhでした。デマンド監視装置で需要電力を把握し、適切に管理することにより使用電力の抑制に努めています。

その他、2017年度の工業用水使用量は65,419m³、都市ガス使用量は21,144m³でした（P.40 参照）。プラントの長期安定稼働を実現することにより使用量の抑制に努めています。

処理センターの電気使用量



処理センターの都市ガス使用量



悪臭防止対策

各種対策で、規制値を遵守しています

リヴァックスでは、廃棄物から発生する悪臭の防止対策を各所で講じています。破碎施設には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置し、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付けて、廃棄物の搬入時以外は閉めています。

乾燥施設から発生する高濃度臭気は、バイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置し、臭気を処理しています。

西宮市との環境保全協定に基づき行っている臭気測定の結果は、2017年度もすべて規制値内でした。（P.22参照）。



水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析し、
適正管理に努めています

リヴァックスでは、廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。排水の異常を防ぐために、連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。また、法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然の予防に努めています。

廃棄物の漏洩・流出防止対策

水密コンテナを使用するなど、
漏洩・流出防止を徹底しています

リヴァックスのリバース・マネジメントセンターでは、ジュースなどの容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業等でジュースがこぼれた場合でも漏洩しないように、倉庫外周に側溝及び8m²の溜め枘を設けています。

さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には、運搬中などに漏洩しないようゴムパッキンのついた水密コンテナを使用しています。パッキン等の消耗品は定期的に点検し、劣化する前に取り換えています。



産業廃棄物処理フロー

2017年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

リヴァックスでは、法律や環境保全協定に基づいて、臭気及び大気、水質の測定を定期的に行っています。
2017年度はすべての測定値が規定値内でした。

臭気測定結果 (2017年10月27日：敷地内境界4地点で測定)

悪臭物質名	規制基準	単位	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレルアルデヒド	0.003	ppm	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	ppm	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度	30	ppm	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 (2017年10月27日、2018年3月14日実施)

測定項目	規制基準	単位	1回目	2回目
窒素酸化物 (NOx)	排出基準	350 ppm	65	45
	時間あたり排出量	0.53 mN	0.42	0.38
	年間排出量	8.5 t	6.8	6.1
硫化物 (SOx)	排出基準	— ppm	1	0.6
	K値規制	1.4 mN	<0.02	<0.02
	総量規制	0.38 mN	0.02	<0.02
ばいじん	排出基準	0.2 g/mN	<0.001	<0.001

重金属等の水質検査結果 (2017年5月26日採水)

測定項目	単位	規制基準	結果
水温	℃	45以下	23.8
pH	—	5.0~9.0	7.1
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.02
銅	mg/l	3以下	<0.1
亜鉛	mg/l	2以下	0.01
溶解性鉄	mg/l	10以下	<1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	<0.01
動植物油含有量	mg/l	30以下	<1
鉱物油含有量	mg/l	5以下	<1

水質測定結果 (2017年度)

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	17	21	25	26	30	30	27	21	16	12	10	14
pH	5.5~8.6	8.1	7.6	8.1	8.1	7.1	7.0	7.6	7.6	8.1	7.5	7.7	7.0
BOD	500mg/l以下	13	1	2	3	2	1	4	3	17	4	3	14
SS	300mg/l以下	14	1	2	1	1	1	1	1	11	3	1	2

株式会社リリーフ

世界につながる、リユース事業



「おかたづけ事業」で回収した使用可能な家具や日用雑貨品を海外で再利用する「海外リユース事業」。2つの事業をリンクさせることで、モノを「破棄」することなく「循環」させる仕組みを構築しています。



TOP MESSAGE 株式会社リリーフ 代表取締役社長 赤澤 正人

私たちは2011年に事業をスタートさせて以来、「遺品整理」という業界の健全化に貢献してまいりました。また、遺品整理で回収したモノを破棄するのではなく「Used in Japan」として海外でリユースすることで国内の廃棄物を減らすだけでなく、世界の人々の豊かな社会の実現にも貢献しています。今後も、「おかたづけ事業」と「海外リユース事業」という2つの事業を軸として世界を舞台にビジネスを展開していきたいと考えております。

業界の健全化をめざし「おかたづけ事業」をスタート

料金とサービスを「見える化」することで、不正のできない業界へと改革

「おかたづけ事業」は、2011年にグループ企業である株式会社大栄の一事業部としてスタートしました。その背景として、独居老人の孤独死が社会問題化したことに伴い、市営住宅のおかたづけの依頼が年々増加していたということがあります。「このような問題が世間一般でどう扱われているのか」を調べたところ、高額請求などのトラブルも多く、適正なサービス提供が行われていない業界であることがわかりました。そこで、これからますます必要とされるサービスに私たちが参入することで「業界の健全化」を図ろうという思いで事業参入しました。

遺品整理業界における問題をなくすために手がけたのが料金

の「見える化」です。部屋の広さによる「定額化」を制定し、ホームページで「業界の標準価格」として公開しました。また、見積もりから作業までを同じスタッフが行う担当制とし、作業後に一切追加請求が発生しない体制を整えました。

当社がサービスの内容と料金を明確化し一般公開したことで、消費者はサービスの比較検討ができるようになり、遺品整理の業界は「不当な高額請求ができない業界」となりました。現在では不動産会社や葬儀会社など、約350社と法人提携しており、より広範囲で当社の提示する価格が「業界のスタンダード」となっています。

FC展開により、日本全国でサービスを展開

急速に増える「遺品整理」の社会的ニーズにスピード感を持って対応するために、2016年よりFC展開をスタートさせました。現在、全国で14店舗を展開しており、今後は3年で27店舗をめざしています。同時に全国に直営店を設置することで、加盟店のサポート体制も整えていく予定です。

また、「生前整理」をテーマに企業からのセミナー依頼も増えており、啓蒙活動にも力を入れています。「生前整理」や「おかたづけ」の必要性を認知していただくことが大切だと考えています。



終活フェアなどで「生前整理」セミナーを行なっています。

国を超えてモノの循環を構築する「海外リユース事業」

「おかたづけ」で回収した不用品を「Used in Japan」として海外で活用

事業開始当初は、遺品整理で回収したモノは破棄しておりましたが、まだ使えるものが多く資源の有効利用のためにもリユースの必要性を感じておりました。モノの行く先を模索する中で、東南アジアでは日本で使用されたものが「Used in Japan」として人気があることがわかりました。

そこで2013年に「おかたづけ事業」で回収した不用品をコンテナで海外へ輸出し、現地のリサイクルショップで販売する「海外リユース事業」を開始。現在では、遺品整理の回収品だけでなく、リサイクルショップや大手家具メーカーから引き取ったモノをタイ、フィリピンを中心とした東南アジア10カ国以上に輸出し、販売しています。その量、40フィートコンテナを平均して月

25本から30本。当社では、現地を訪れて売れ筋をヒアリングした上でモノを現地に送っており、実際に現地の人々の生活のシーンで喜ばれています。日本においても「おかたづけ」をされるお客様からは、「必要な場所で使ってもらえるのが嬉しい」との声を多くいただいています。また、リユースすることで処分費がかからないことから、「おかたづけサービス」の料金低減にもつながっています。

当社は「おかたづけ事業」を「リユース事業」につなげることで、「循環型社会」を支える仕組みを完成させました。この仕組みをさらに展開させることで、日本の社会課題と世界の人々の豊かな暮らしに貢献していきたいと考えています。



輸出先で直接ニーズをリサーチすることで、現地で求められる品を送れるよう心掛けています。

TOPICS



チャイルド・ドリームの活動を支援しています

私たちが事業を行なっている東南アジアで活動する慈善団体「チャイルド・ドリーム」は、人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちを支援する団体です。子どもたちの医療、教育環境を改善すべく、日々活動に取り組んでいます。私たちはリユース事業で販売した売上の一部を寄付することで、現地への利益還元を行なっております。

株式会社ダイキョウクリーン

飲食業界のインフラに貢献



飲食店などの
厨房にあるグリストラップ清掃、
ビルや施設の排水管清掃など
年間1万件以上の作業実績を誇る
株式会社ダイキョウクリーン。関東・
関西14エリアという対応エリアと
コンプライアンスを重視した適正
処理で選ばれています。

WEST **14 AREA** EAST



TOP MESSAGE 株式会社ダイキョウクリーン 代表取締役社長 津田 政房

株式会社ダイキョウクリーンは、株式会社大協として家庭ごみ収集など環境の最前線を走り続けてきたノウハウを活かし、飲食業界・ビルや施設などの清掃の分野に進出、環境保全に貢献しています。2016年度には関東地域へ進出、事業規模を全国へ展開することで大手チェーン店のお客様にも窓口ひとつで対応できる体制が整いました。今後も「なくてはならない唯一の企業」として業界のインフラを支える存在であり続けることをめざしています。

西宮から全国へ！「日本唯一」の企業をめざす

グリストラップの清掃から処理までを一括して行う専門会社

当社は、飲食店のグリストラップ清掃やビル・工場・施設などの貯水槽や排水管等の清掃を行っています。

「グリストラップ」とは「油水分離阻集器」のことで、飲食店などの油を含む汚水が排水管設備を傷めないよう設置を義務付けられた装置です。グリストラップは、野菜くずや残飯をバスケットで阻集すると共に、水に油を浮かせることで油分を分離し、下水に油が流出することを防ぐ役割があります。この水に浮いたまっした油は定期的な清掃が必要で、清掃を怠ると害虫や悪臭の原因になります。

グリストラップ清掃について大手ファーストフードチェーン店

より相談いただいたことをきっかけに、2010年よりグリストラップ清掃事業をスタートさせました。その後、グリストラップ清掃やビル、施設の貯水槽、配管清掃を専門的に行う会社として株式会社大協より株式会社ダイキョウクリーンとして独立、現在に至ります。



関西と関東、全国14エリアに展開。全国チェーン店舗に対応

これまでグリストラップ清掃を行う会社は小規模事業者が多く、全国展開の大手チェーン店は、エリアごとに地元業者で対応していました。当社もスタート当初は西宮市と伊丹市を中心に事業を行っていましたが、あるお客様から「兵庫県下全域」すべてに対応してほしいと依頼があり、まずは兵庫県下の「産業廃棄物収集運搬許可」を取りました。その後も、お客様からのニーズに応じて事業エリアを拡大して来しました。

2016年には東京オフィスと関東事務所を構え、本格的に関東進出を果たしました。現在、関西と関東14エリアで許可を持つ、事業エリアの広さでは業界唯一の企業となっております。

広範囲で対応可能な体制を整えたことにより、お客様にとっては複数店舗の情報の一元化と各店舗の管理の簡素化につながり、全国規模のチェーン店や全国に拠点をもつ企業に大変喜ばれています。

全国14エリアで産業廃棄物収集運搬許可を保有

- 関西エリア**
大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、岡山県
- 関東エリア**
東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県

最新設備と技術力を駆使、年間1万件以上の作業実績

積み上げたノウハウにより高層階、地下階も対応

当社のもう一つの強みは、年間10,000件以上という作業件数により積み上げたノウハウと設備投資により、高層階や地下階などの店舗といったこれまで対応できなかった店舗での作業も可能であるという点です。

グリストラップ清掃はホースが届くところが作業の限界とされてきました。しかし当社ではポータブル設備を導入し、高層階や地下階にも対応しています。

また、グリストラップ清掃だけでなく、高圧洗浄車に対応できる貯水槽の清掃にも事業の幅を広げ、病院や施設、大型ショッピングモールなど複合施設の貯水槽や排水管全般の清掃や補

修も行なっています。

当社は「アナログな作業にまじめに取り組む」ことでノウハウを丁寧に積み上げ、実績を重ねてきました。この事業は、いかに「当たり前のことを、当たり前」にできるかが評価ポイントとなります。地道な努力を積み重ねることが事業拡大につながると考えています。

7tバキューム車2台、
3tバキューム車8台、
高圧洗浄車2台、
2t平ボディトラック2台と
多くの作業車両を
保有しています。



法令遵守、コンプライアンスに基づく適正処理

当グループは、長く家庭ごみ収集など環境衛生や廃棄物処理に携わってきました。近年では単に廃棄物を適正に運搬・処理するだけでなく、「環境保全」や「環境負荷の低減」をも考慮した企業姿勢が求められています。

そのため、当社では、定期的な清掃を行うことで厨房の衛生環境の改善を行うだけでなく、グリストラップ清掃事業が、水質汚染の防止や排出される汚泥の低減につながることをめざしています。

また、グリストラップ清掃時に発生する油や食品残さは「産業

廃棄物」として適正に処理することで、清掃から処理まで一貫してコンプライアンスに基づいた適正な作業を行なっています。それを証明するマニフェストも発行し、企業の法令遵守が重要視される社会においてリスク管理意識の高いクライアントに選ばれています。

関東の市場の大きさは関西の4.5倍ともいわれ、まだまだ開拓の余地のある市場です。今後は、日本全国に広域に点在する拠点をさらに増やしていくことで、全国の飲食チェーンのインフラをしっかりと支える重要な役割を担っていきたくと考えています。

TOPICS



作業のクオリティに関して「クレーム件数ゼロ」が強みです

ダイキョウクリーンでは、10,000件以上という年間作業件数にも関わらず、クレーム件数ゼロを維持しています。私たちの仕事は、「当たり前のことを当たり前にする」ことが最も大切。今後もコンプライアンスを重視した適正処理に重点を置き、企業の衛生管理に貢献したいと考えています。



株式会社大栄は、西宮市を拠点に家庭ごみ・事業ごみなど一般廃棄物の収集運搬や家庭系粗大ごみの回収を担っています。2017年9月には、業界イメージの刷新を図り関西で初となる女性だけのゴミ収集チーム「さくらチーム」を発足しました。



TOP MESSAGE 株式会社大栄 代表取締役社長 木村 裕之

株式会社大栄は、グループの原点ともいえる事業を担っています。ごみ回収業は、インフラを支える社会にとって、なくてはならない仕事です。当社はお客様や地域の方々に真摯に向き合うことで業界の健全化を進めてまいりました。近年では業界のさらなるイメージアップにも力を入れており、誇りを持って働ける業界へと進化をめざしております。今後も社会に向けて、私たちの取り組みをお伝えできればと考えています。

関西初の女性ばかりのごみ収集チームを発足

業界の人材不足と、イメージアップを同時に実現

「さくらチーム」は、関西初の女性によるごみ収集チームです。2017年9月に発足し、現在2台のピンクのパッカー車「さくら号」が西宮市内のごみを収集しています。ごみ収集の仕事は「3K」というイメージを持たれがちですが、実は朝早起きと適度の運動が習慣になると健康的な仕事です。残業もないので仕事とプライベートを両立させやすく働きやすいというメリットもあります。

そこで、当社では「女性の活用」により、「業界の人材不足の解消」と「ごみ収集の仕事や業界のイメージアップ」が同時に実現できるのではないかと考えました。発足当初は1名だったさくらチームですが、約半年で運転手2名と助手4名、計6名にまでメンバーが増えました。ごみステーションの掃除など女性なら

ではの細やかな仕事ぶりが市民の方々からも好評で、会社にお礼の電話がかかってくることも少なくありません。地域の方との会話も生まれ、ピンクのパッカー車に子どもたちが手を振ってくれたり、ごみを出しに来た市民の方々が楽しみに待っていてくださったたり、街の人がこの取り組みを一緒に楽しんでくださっていることを実感しています。新聞やテレビなどマスメディアで取り上げられるなど反響も予想以上で、同業者からも注目度の高い取り組みとなりました。

今後もさくらチームが明るい笑顔で街へ繰り出し丁寧なサービスを行うことで、「街をきれいにする」ことの素晴らしさを伝え、西宮市の美化に大きく貢献できればと考えています。

COLUMN

半年でメンバーが6人に。友達を誘ってしまうほど、楽しい仕事です

さくらチームインタビュー！



最初は男性の仕事というイメージが強くて心配だったのですが、会社のみなさんがとても優しく安心しました。ごみステーションの掃除をしていたら地域の方に「ここは掃除しておくから、先に行っていよいよ」と声をかけていただいたり、狭い道で通行を譲っていただいたり、地域の人のあたたかさを日々感じながら仕事をしています。ピンクのパッカー車に乗っていると、みなさん笑顔で手を振ってくださいます。海外の人が写真を撮ってくれることもあります。世界中にSNS発信してもらって西宮の街をアピールできたら嬉しいです。将来は、もっともっとチームの人数を増やして、地域を明るくできたらと思います。

「廃棄物計量システム」でごみの減量化に貢献

地球にやさしく、企業にとっては経費削減に

当社では、12年前より車両にごみを積み込むだけで重量を計測できる「スケールパッカー車」を、定期回収を行う全車両に導入しています。ごみを計量し、そのデータを管理することで月ごとのごみの増減や処理金額が一目でわかるシステムです。このシステムの導入により、お客様に対してごみ処理量の透明性を確保できるだけでなく、ごみ処理量に対する「従量課金制」とすることで「ごみの減量化＝経費削減」の提案につなげることができました。

数字によるごみの「見える化」は、お客様のごみの減量化の意識を高め、予想以上の減量に成果を上げています。「ごみの減量」は当社にとっては「売上減少」になるのではと聞かれますが、ごみが減量すると処理費用も下がります。売上ではなく利益ベースで捉えることで、お客様と社会、地球環境にとってよい提案やサービスが実現できることを心がけています。

■ 廃棄物計量システムの仕組み



TOPICS



市内の小学校で出前授業を行っています

大栄では、西宮市内の小学校や高校で出前授業を行っています。2017年度は5月に小学校を訪問し、ごみの種類とその分別法、ごみ収集車の仕組みについて実際の車両を用いて説明しました。さくらチームもすでに市内3校（瓦木小学校・瓦林小学校・夙川小学校）で出前授業を実施しています。ピンクの車両に子どもたちは興味津々で、楽しい授業となりました。



株式会社大協は、伊丹市で初めて一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者です。「老舗」としての信頼と信用を大切に、行政と連携しながら地域に貢献しています。2017年には、業界の人材不足を解決する人材派遣事業「Dcareer」をスタートさせました。



TOP MESSAGE 株式会社大協 代表取締役社長 森下 和尚

株式会社大協は、1962年の創業より伊丹市を中心とした家庭ごみや事業ごみの収集を行っております。56年という長い社史の中で、地域のみなさまが快適に過ごせる生活環境づくり、ごみの適正処理や減量のお手伝いを心がけてまいりました。2017年度は新しく人材派遣事業「Dcareer（ディーキャリア）」を立ち上げました。今後も、地域社会に貢献するという事業基盤を大切に、「守り」と「攻め」の両視点から事業を推進する方針です。

行政との連携で、地域密着のサービスを行う

「企業としての在り方」を大切に、地域に貢献するビジネスを

株式会社大協は、伊丹市を拠点に家庭ごみや事業ごみなど廃棄物の収集・運搬を行っています。当社は高度成長期に社会問題化しつつあった「家庭ごみ・事業ごみの回収」をいち早く事業としてスタートさせ、伊丹市では第一号の一般廃棄物収集運搬業許可業者となりました。以来、56年にわたり「地域社会に快適な生活を提供したい」という想いで、伊丹市と信頼関係を維持しつつ事業を行っています。

廃棄物の収集という事業は、とすれば価格競争になりがち

な業界です。「ごみの処理にかかる費用は安ければ安い方がいい」という考え方は、理に叶っており当然なのかもしれません。しかし当社は、価格のみならず、社会貢献や事業方針など「企業としての在り方」を大切にすることで、同じ価値観を持つお客様から「選ばれる企業」でありたいと考えています。この地域における廃棄物処理業の「老舗」としてのプライドを持って、事業に取り組んでいます。

「従量課金制」でごみの減量化を提案

当社の代表的な取り組みとして「従量課金システム」があります。ごみの量の増減に関係なく契約時に設定した「月額金額」を支払うシステムを採用する業者が多い中、当社はその場でごみの重量を計量できる「スケールパッカー車」を導入することで、ごみの排出量に応じた金額やプランを提示しています。

それにより、ごみ処理料金の透明性が実現するだけでなく、お客様のごみの減量化に対する意識向上や経費削減にもつながっています。



ここに重量が表示されます

業界の人材不足を解決する、「Dcareer」をスタート

業界の抱える人材不足をビジネスとして解決

2017年度より、環境ビジネス業界におけるドライバーに特化した人材派遣事業「Dcareer（ディーキャリア）」をスタートしました。近年、世間ではドライバー不足が社会問題化しており、環境ビジネスの業界においても人材確保が課題となっている企業が多くあります。また、パッカー車で廃棄物を収集する「環境ビジネスドライバー」は、徐行運転や狭路など特殊な運転技能を必要としますが、その経験者は少なく、即戦力となる人材の確保は困難といわれています。

一方で、当社は、長年にわたって「環境ビジネスドライバー」を育成してきたノウハウがあります。そこで、ドライバー不足に悩む業界自体の解決の糸口になるべく、人材派遣事業を立ち上げました。

派遣事業としては後発となりますが、未経験者や運転プランクのある方を採用し、独自の安全教育・運転教育・実地研修・カリキュラム研修を徹底的に行うことで「即戦力」となる人材へと

育成する仕組みを構築し、差別化を図っています。即戦力となる優秀な人材を必要な時に提供するこのサービスは、派遣先の企業様からも大変よい評価をいただいています。

単なる派遣に留まらず、社会課題を的確に捉え、企業のニーズに応え、当社に関わるみなさまの期待を超える、新たな社会的価値を生む事業としての確立をめざしていきます。今後も、社会基盤を担う廃棄物業界の支えになると共に、地域の安心・快適な暮らしづくりに貢献していきます。

実際に働く派遣スタッフの声

以前、正社員で働いていた職場では残業も多く、プライベートの時間をもてませんでした。派遣ドライバーとして働かせてもらってからは、プライベートも充実させることができ、自分らしいライフスタイルが過ごせています。（派遣スタッフ30代男性）



整った研修カリキュラムと徹底した教育体制で、環境ビジネスドライバーを育成します



安全教育

法令遵守の徹底、車両点検の重要性など、環境ビジネスドライバーに必須の安全教育を行います。



運転教育

エコドライブ、狭路運転、巻き込みや過積載の危険性、駐停車の際の注意点などを徹底的に指導します。



実地研修

実際のルートに沿って運転を行い、収集現場にて作業を行います。



カリキュラム研修

当社オリジナルの座学研修を個人のレベルに合わせて、段階式に行います。

TOPICS



サツマイモの苗を小学校に寄贈しています

2010年度から伊丹市内の小学校にサツマイモの苗を寄贈し、栽培を通じて子どもたちの環境教育や食育を支援しています。この苗は、グッドホールディングスグループが参加している「甲山農地プロジェクト」を主宰するNPO法人子ども環境活動支援協会（LEAF）が落ち葉でつくった堆肥を使って育苗したものです。2017年度は、16校及び特別支援学校と幼稚園15園に2,200苗を寄贈しました。



グッドホールディングス
グループの
CSR活動



経営・ガバナンス



様々な変化に迅速に対応し、経済と社会の両面からグループ全体の発展を追求します

基本的な考え方 | グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じ優れたサービス・製品を提供することにより社会の発展に貢献すると共に、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

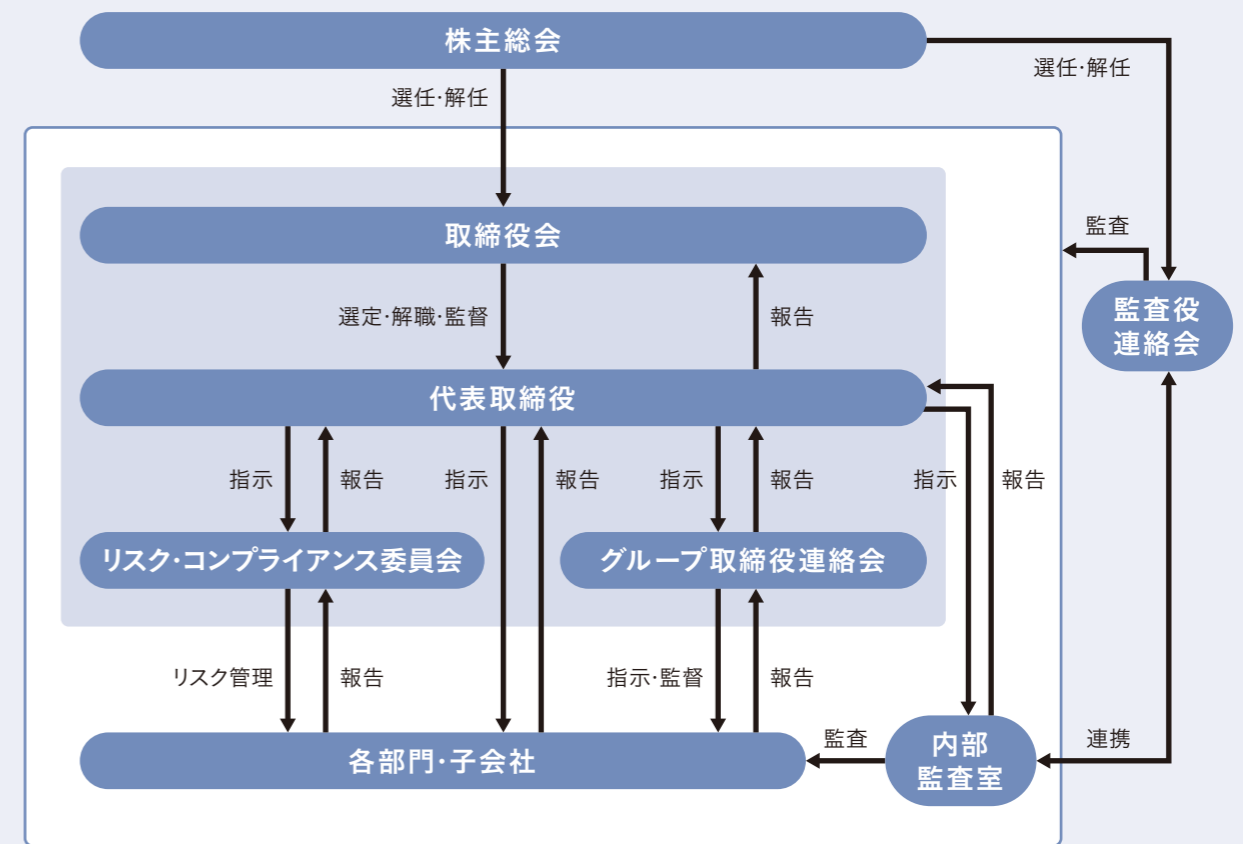
組織統治

経営管理体制

■「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業及び経営に努めています。またグループ全体の持続的成長及び中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレートガバナンスの構築に努めています。

コーポレートガバナンス体系図



その他の会議体

- **グループ部門責任者会** ……全グループの役職者が集まり、各社の収支実績や活動内容などを報告し、有益な取り組みや問題点などを互いに認識し参考にすることで自社内の活動見直しや改善を図るための情報共有の場となっております。
- **各社事業会議／定例会** ……会社の方針や課題について協議し、円滑な業務執行を図っています。

取締役会

経営の重要な意思決定と 取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は、6名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言及び助言を得ております。

監査役連絡会

取締役の職務執行を監査しています

当社の監査役連絡会は、常勤監査役1名、独立性の高い社外監査役1名により構成されております。取締役会や重要な会議への出席などにより、取締役の職務の執行を監査すると共に、必要に応じて意見を述べております。

VOICE



グッドホールディングス株式会社
常勤監査役

八鳥 尚志

当社は、経営理念として「五方よし」を掲げ、「みんなが良いと感じる会社」をめざしております。そのため、株主・顧客・取引先・従業員等のステークホルダーに対して、法と規則を遵守した透明性の高い企業経営を実践して、長期的・継続的に企業価値を増大させることを、経営上の重要な課題として位置づけております。

現在の取り組みは、取締役会、監査役連絡会及び内部監査室という枠組みの中で、社内制度の改革を進め、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。具体的には、リスク・コンプライアンス委員会の設置や内部通報制度の導入等を行っております。

今後は、各ステークホルダーへのアカウンタビリティ（説明責任）の充実、迅速かつ適切なディスクロージャー（情報開示）に取り組んでまいります。

グループ取締役連絡会

グループ全役員による連絡会で 協議を行います

月に1回開催するグループ取締役連絡会は、グループ全役員で構成されており、業務執行の報告や決議事項について協議を行います。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と コンプライアンスの徹底に取り組みます

2018年度より、財務の健全性及び業務の適切性を確保し、企業目的の達成及び社会的信用向上を図ることを目的に「リスク・コンプライアンス規程」を制定し、リスク・コンプライアンス委員会を発足しております。

今後、起こり得る各種リスクを検討し、統合的なリスク管理に努めると共に、コンプライアンスに関する研修教育を行い、企業の社会的責任並びにコンプライアンスの徹底に取り組みます。

内部監査部門による監査

内部監査による検討評価、助言・提案、 フォローアップ監査を徹底しています

グループ全体の業績の向上、財産の保全・活用に資することはもちろん、コンプライアンスの徹底と充実を目的として内部監査を実施しております。

内部監査については内部監査室が担当し、代表取締役による承認を得た内部監査計画書に基づき、経営活動の全般に係る管理・運営の業務の遂行状況について合法性と合理性の観点から検討評価しております。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、内部監査の過程で改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うと共に、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しております。また、内部監査の実施状況はリスク・コンプライアンス委員会においても報告し、委員会メンバーと共有しております。



従業員持株会

従業員の経営への関心向上や 福利厚生の充実に努めています

従業員の福利厚生の増進や経営への参加意識の向上を図ることを目的として、従業員持株会制度を新たに設置し、従業員説明会を実施しました。

加入対象者は、全従業員（役員及び短期間勤務のアルバイト・パート除く）とし、事務局が窓口となり、加入希望者を募って運営しています。初年度のグループ全体の加入率は66%、対象従業員188名のうち125名の入会となりました。



情報システム管理体制

お客様に安心してご利用いただけるよう セキュリティ対策を実施しています

当社では、お客様の企業情報、個人情報などの情報資産を適切に取り扱うため、新たに情報システム部を設置しました。

それに伴い、第三者機関の調査を受け、下記の改善を実施しています。

- ・グループ全社で統一した情報システム管理規程の整備
- ・ネットワーク環境へ接続する際のセキュリティレベルの底上げ
- ・グループ間の情報共有を円滑化するためのシステムの導入

情報システムの分野は日進月歩で日々進化しています。今後も適宜、最新の動向を踏まえた効率化とセキュリティ対策を実施し、お客様に安心してご利用いただけるサービスをめざします。

内部通報制度

2018年3月より内部通報制度を 導入しました

当グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為等を早期に発見し、不正行為を未然に防ぐと共に必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しました。

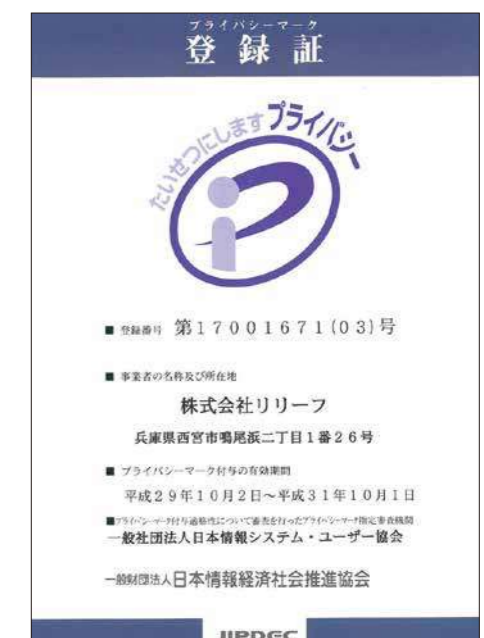
通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっています。

個人情報の徹底管理

プライバシーマークを取得し、 情報セキュリティを強化しています

おかげさまでサービス等においてお客様の個人情報を取り扱うリリースでは、プライバシーマークを取得し、情報管理を徹底しています。

個人情報の取り扱い等について定めた規程及び方針を制定し、個人情報の利用目的や情報漏洩のリスクとあわせて、年1回、社員教育を実施しています。



法令順守

法令順守状況

2017年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。

また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2017年度も前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	名称
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付け等
大気汚染防止法	NOx、ばいじん等の排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準等
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検及び整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任等
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施等
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検等
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検等
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭等の測定方法や回数等

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、順守評価記録で管理しています。この順守評価記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価し、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。

事業に関わる法改正については、当該記録項目を改訂すると共に、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物を収集運搬するリヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。

積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託及び受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。

とりわけ、産業廃棄物事業を主体とするリヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

コミュニケーションツールとして、各社で活用しています

廃棄物処理事業そのものやグッドホールディングスグループの取り組みを広く知っていただきたいとの想いで、リヴァックスは2002年度から、大栄と大協は2008年度から報告書を発行しました。それから毎年社員の手で作成し、各社とも版を重ねるごとに充実したものとなりました。

2015年度、ホールディングス体制への移行を機に、報告書についても、グループで統括することとなりました。ホールディングス体制で第3回目の発行となる2017年度からは名称を「サステナビリティレポート」と変更し、「第21回環境コミュニケーション大賞」において、昨年に引き続き優良賞を受賞しました。今後もステークホルダーのみならず私たちが結ぶ重要なコミュニケーションツールの一つとして、引き続きその発展に努めていきます。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度*」が創設されました。各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」は、ここに情報を掲載すると新制度で求められる事業の透明性に関わる基準に適合するように構築されており、許可内容や財務諸表などの情報を同サイトで公開しています。

*優良産廃処理業者認定制度：5つの基準(①実績と遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取り組み ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性)すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

[産廃情報ネット] <http://www.sanpainet.or.jp/>

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、事業会社ごとに毎月1回行っています。この業績報告会は、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。

会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっています。



日次収支の共有

全事業部の売上高や見込みコストを日次で集計

グループ各社では、全事業部の売上高や見込みコストを日次ベースで集計しています。そこに、日次ベースに細分化した月間の売上予算、限界利益、営業利益目標も記載し、対比表とした「日次収支表」を作成。日々の達成率や月間の売上予測を速報値として割り出し、管理しています。そのデータは毎日、経営層と各社スタッフへ配信されており、スタッフ全員が社内の売上やコストの動きを把握することで、関係部門でコミュニケーションを図り、解決策や新たな打ち手を見つけ出しています。

事業継続計画(BCP)の構築

予想される災害にも動じない対策を講じています

当グループでは、南海トラフ大地震や津波などの大規模な災害に備え、社員の安全確保や社屋の損壊を防止するだけでなく、本来の事業を継続させ、地域社会の復興活動を推進し、ステークホルダーに対する責任を果たすため事業継続計画(BCP)の策定をしました。

災害対策本部の機能・意思決定フローの策定、グループ各社ごとのBCPマニュアルの作成・従業員への周知と配布、安否確認方法の決定と訓練、災害備蓄品の購入と設置等を行いました。これにより、2018年6月に発生した大阪北部地震でもスムーズに全従業員の安否確認を完了することができました。

今後も継続的に、安否報告訓練や避難訓練等を実施し、大規模災害に即時対応できる組織体制を築いていきます。



環境



循環型社会の一翼を担う企業として
環境に配慮した事業活動に努めています

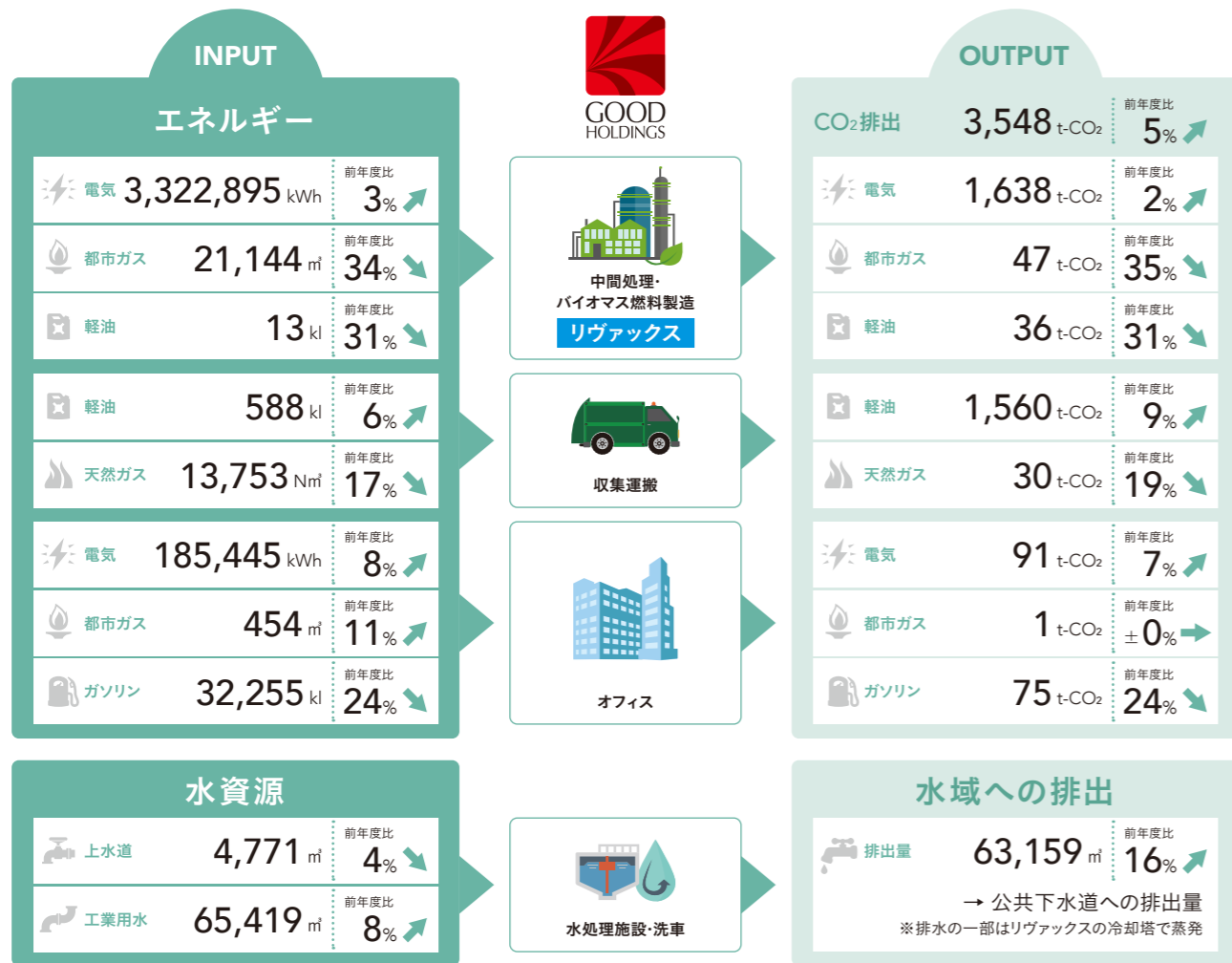
基本的な考え方 地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは、私たちの責務であり、グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境に伴う環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2017年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握した上で、資源の有効活用及び環境負荷の低減に取り組んでいます。

グッドホールディングスグループ環境方針

- 1 地球環境の保全
- 2 法令順守
- 3 地域社会との共存・コミュニケーション



◎二酸化炭素 (CO₂) の排出係数
 供給された電気 (関西電力) 0.000493 t-CO₂/kWh
 軽油 (単位発熱量) 37.7GJ/kl (排出係数) 0.0187tC/GJ
 都市ガス (単位発熱量) 448GJ/千Nm³ (排出係数) 0.0136tC/GJ
 天然ガス (単位発熱量) 435GJ/千Nm³ (排出係数) 0.0139tC/GJ
 ガソリン (単位発熱量) 346GJ/kl (排出係数) 0.0133tC/GJ

(出典)
 地球温暖化対策の推進に関する法律 (平成29年12月21日環境省報道発表資料)
 平成28年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について
 地球温暖化対策の推進に関する法律施行令 別表第一 (第三条関係)

活動の目標と実績

活動テーマ	Plan	Do	Check	Action
	2017年度目標	2017年度実績	結果	2018年度目標
リヴァックス				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気 94.55kWh/t以下 燃費 3.92km/ℓ以上	91.62kWh/t 3.91km/ℓ	○ ×	電気 90.70kWh/t以下 燃費 3.91km/ℓ以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気 18,056kWh以下 (※1) 燃費 19.55km/ℓ以上	4,370kWh/月 (9月~3月平均値) 18.84km/ℓ	- ×	電気 4,370kWh/月以下 燃費 18.84km/ℓ以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追及	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	苦情件数: 4件 自主基準値順守	×	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守
	●お客様への情報発信 メールマガジンの発行: 12回 セミナーの開催: 1回	12回発行 1回実施	○ ○	メールマガジンの発行: 12回 セミナーの開催: 1回
リリーフ				
エネルギー使用量削減	電気 49.9kWh	41.65kWh	○	電気 現状維持もしくは49.9kWh以下
効率的な資源の使用	ガソリン 12.1km/ℓ	11.1km/ℓ	×	ガソリン 現状維持もしくは12.1km/ℓ以上
環境負荷の低減	事務所内の廃棄物減量: 476kg	347kg	○	事務所内の廃棄物減量化: 347kg以下
ダイキョウクリーン (※3)				
エネルギー使用量削減	電気の使用量 ガソリン使用量 軽油の使用量	12,817kwh 4.09km/ℓ 4.95km/ℓ	- - -	- - -
環境負荷の低減	水の使用量 事務所の廃棄物減量化 (※2)	589,5m ³ 272.7kg	- -	- -
大栄				
エネルギー使用量削減	電気 40,750kWh以下	22,429kWh	○	電気 3.5wh以下 (1時間あたり)
効率的な資源の使用	●燃費の維持 ガソリン 10.2km/ℓ以上 軽油 2.69km/ℓ以上 天然ガス 3.62km/Nm ³ 以上	11km/ℓ 2.63km/ℓ 3.84km/Nm ³	○ ×	ガソリン 11km/ℓ以上 軽油 2.63km/ℓ以上 天然ガス 3.84km/Nm ³ 以上
環境負荷の低減	水の使用量削減: 2,063m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量化: 368kg以下 CO ₂ 排出削減: 512,492kg-CO ₂	水の使用量: 2,062m ³ 587kg 542,128kg-CO ₂	○ ×	水の使用量削減: 2,062m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量化: 587kg以下 CO ₂ 排出削減: 542,128kg-CO ₂
	グリーン購入の推進	コピー用紙など対象品目の実施率: 100%	○	継続的な実施
大協				
エネルギー使用量削減	電気使用量の削減 (※2) ガソリン使用量の削減 (※2) 都市ガス使用量の削減 (※2)	25,492kwh 5,047ℓ 84m ³	- - -	電気使用量の削減 (※2) ガソリン使用量の削減 (※2) 都市ガス使用量の削減 (※2)
効率的な資源の使用	●燃費の維持 コンテナ車 4.22km/ℓ以上 大型車燃費の維持 小型車燃費の維持 平ボディ車 4.76km/ℓ以上	4.58 km/ℓ 2.63km/ℓ 3.42km/ℓ 5.03km/ℓ	○ - -	コンテナ車 4.46 km/ℓ以上 平ボディ車 4.76km/ℓ以上 (※2)
環境負荷の低減	水の使用量削減 (※2) 紙の使用量削減 (※2) 事務所の廃棄物減量化 (※2)	1,237m ³ 117kg 415kg	- - -	水の使用量削減 (※2) 紙の使用量削減 (※2) 事務所の廃棄物減量化 (※2)
グッドホールディングス (※3)				
エネルギー使用量削減	電気の使用量 ガソリン使用量	12,844kwh 4.09km/ℓ	- -	- -

※1 2017年8月の事務所移転に伴い、目標数値の対象を本社に限定したため、今回実績値を測定していません。
 ※2 軽油 (コンテナ・平ボディ車) を除く使用量については、達成可能数値の上限に達したため、目標数値は設定していません。
 ※3 ダイキョウクリーン・グッドホールディングスは、現在環境目標の設定中です。

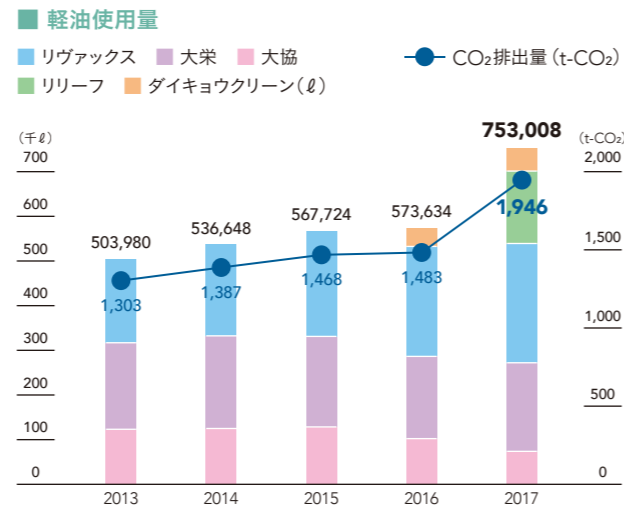
環境負荷低減の取り組み

軽油使用量

エコドライブに努めています

廃棄物の収集運搬で使用する各車両をはじめ、場内で利用するフォークリフト、ショベルなどの燃料に軽油を使用します。燃費効率向上のため、ドライバーの意識を高めエコドライブの徹底や、定期点検を実施しています。

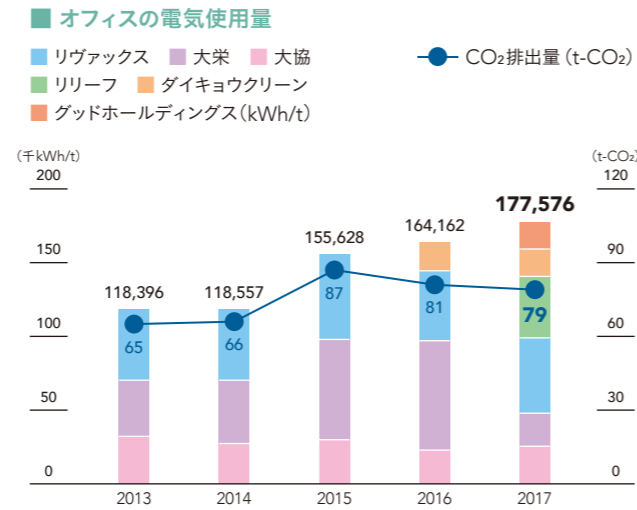
2017年度の軽油使用量は753,008ℓで、前年度より31%増加しました。



オフィスの電気使用量

照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

2017年度のオフィスでの電気使用量は177,576kWhで、前年度より8%増加しました。オフィスでは、自然光の活用による照明点灯時間の短縮や、空調の温度管理(冷房28度以上、暖房22度以下)などによる省エネルギー活動を実施しています。

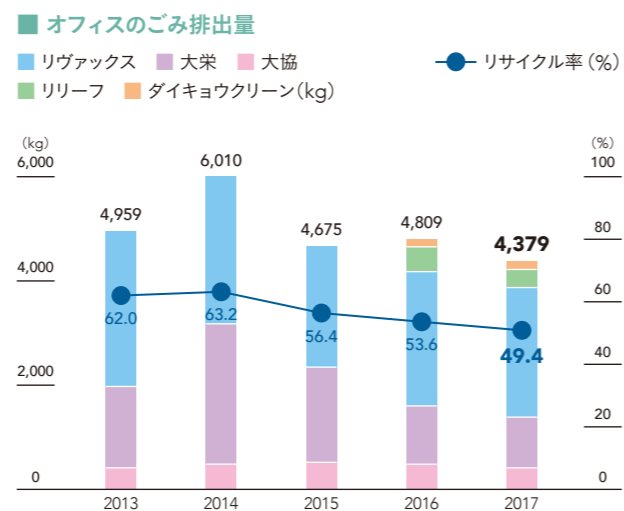


オフィスのごみ排出量

排出量は前年度から減少しました

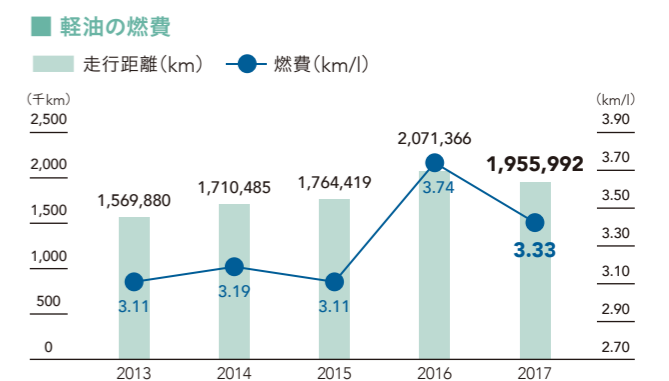
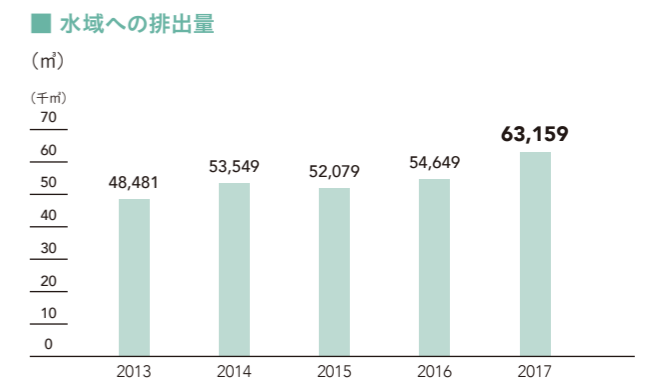
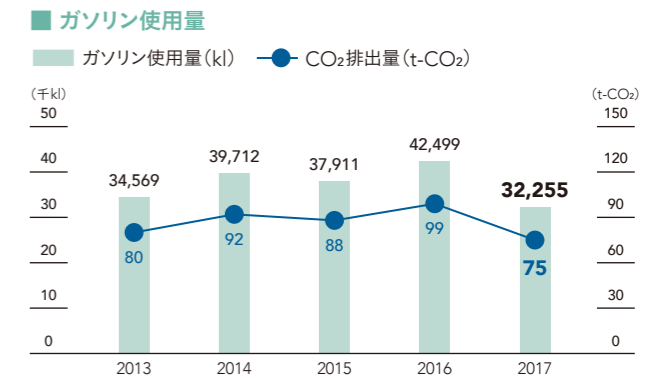
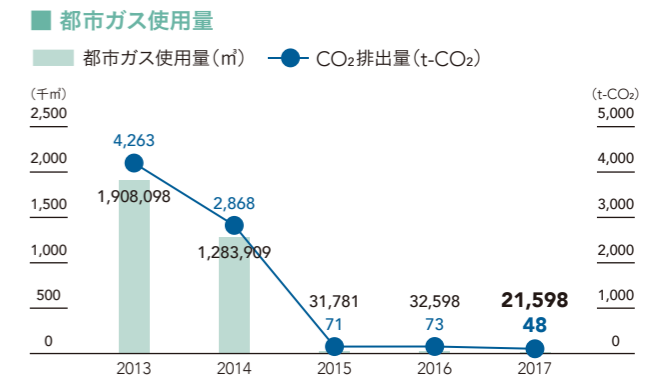
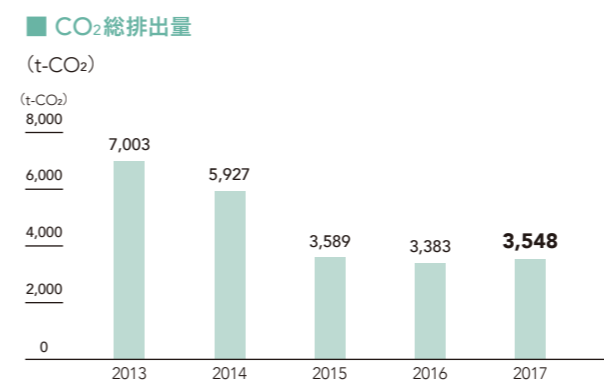
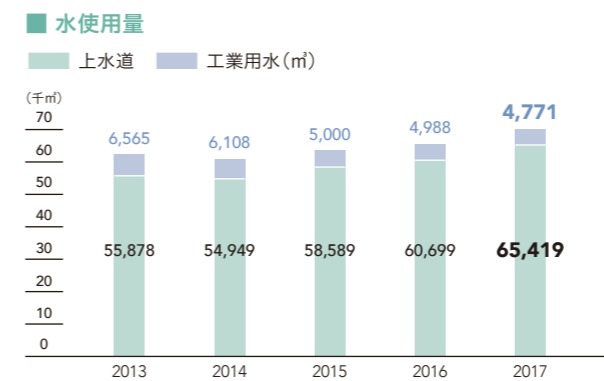
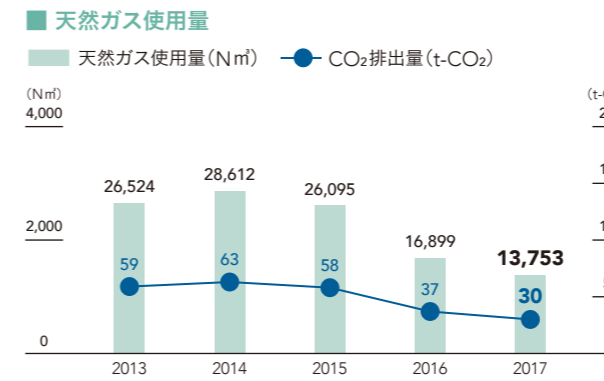
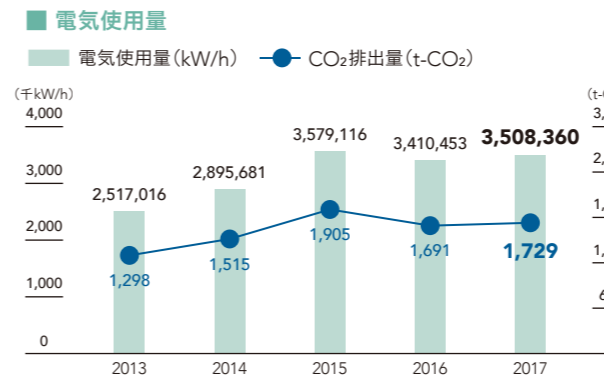
オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

2017年度のオフィスからの総排出量は4,379kg、リサイクル率は49.4%でした。排出量は約9%減少し、リサイクル率も前年度を下回りました。



環境パフォーマンスデータ

グッドホールディングスグループにおける過去5年間の推移です。INPUTとOUTPUTの数値を把握し、改善のための指標にしています。





人権・労働慣行



従業員の人材力向上と、安心して働ける環境整備を進めています

基本的な考え方 グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性和普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいをもって働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

活動テーマ	Plan	Do	Check	Action
	2017年度目標	2017年度実績	結果	2018年度目標
リヴァックス ■パートナー*が安心して働ける職場環境づくり	事故ゼロ			
	休業災害：0件	1件	×	休業災害：0件
	不休災害：0件	1件	×	不休災害：0件
	物損事故4件未満 (2016年度比50%削減)	10件	×	物損事故：5件未満 (2017年度比50%削減)
	事故防止			
パトロールの実施：月1回	月1回実施	○	パトロールの実施：月1回	
快適な職場づくり				
社内一斉清掃の実施：2回	2回実施	○	社内一斉清掃の実施：2回	
リリース	2017年度実績	休業災害：0件	不休災害：2件	物損事故：2件
ダイキョウクリーン	2017年度実績	休業災害：0件	不休災害：0件	物損事故：2件
大栄	2017年度実績	休業災害：2件	不休災害：0件	物損事故：9件
大協 ■パートナー*が安心して働ける職場環境づくり	事故件数の削減			
	5件(2013年度発生件数)未満	休業災害：1件 不休災害：1件 物損事故：12件	×	5件未満
	安全・快適な職場づくり			
3S活動のシステム化	月1回の環境委員会で進捗状況を確認	○	3S活動のシステム化	
グッドホールディングス	2017年度実績	休業災害：0件	不休災害：0件	物損事故：0件

※ パートナー：社員並びに従業員などお客様のために一緒に働くすべての人たち。

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント／ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

リヴァックスでは、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2017年度は515件の危険源を抽出し、その中からリスクポイントの高い危険源を118件

特定し、リスク管理を実施しました。

リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例:安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策をとっています。

また、事故にはならなかったものの、ヒヤッとしたことやハットしたことを抽出するヒヤリハットも常時行っており、2017年度は159件のヒヤリハットを抽出し、リスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、事故防止に努めています

大栄と大協では、収集業務で使用する全車両にドライブレコーダーを搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。



ドライブレコーダーの映像

交通安全運転講習

外部から講師をお招きし、安全教育を強化しています



グループ全体で約80台の業務車両を保有し、お客様先から廃棄物を収集し、処理先まで運搬しています。事業を行う上で、「安全」は最優先事項であり、グループをあげて交通事故防止に取り組んでいます。

安全運転を徹底するための教育の一つとして、外部から講師をお招きし、安全教育を実施しています。

酸素欠乏及び硫化水素中毒対策

保護具着用訓練を毎月実施し、事故防止に努めています

有機性廃棄物の処理をするリヴァックスでは、廃棄物から発生する硫化水素中毒や、汚泥貯留槽に入る時に起こる酸素欠乏は大きな危険源です。

貯留槽のメンテナンスを行う処理センターでは、毎月エアラインマスクをはじめとする保護具着用の訓練を実施し、事故の未然防止に努めています。

人事に関する取り組み

人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

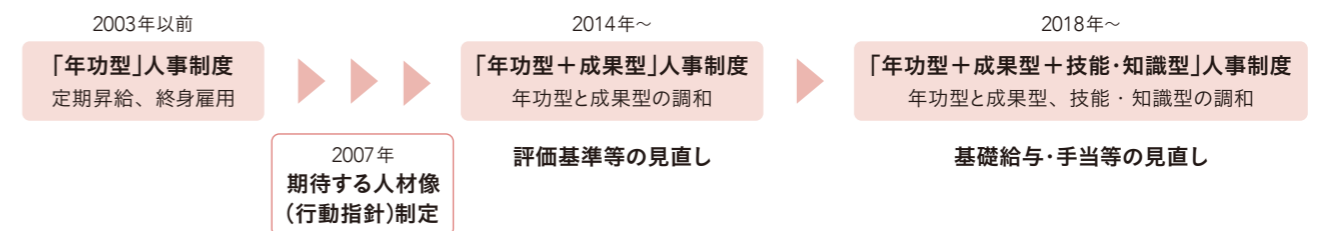
当グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ成果が正当に評価される人事制度をめざしています。人事制度は、社内外の環境の変化に反応し、その時々状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えています。

2013年度までは各社が独自の人事制度を運用していましたが、新しい事業が生まれる中で、まじめに頑張る人やチャレンジ

する人を応援し働きがいを感じられる制度をめざし、2014年度に大栄と大協において人事制度を見直し、「年功型」と「成果型」を調和したグループ共通の人事制度を運用しておりました。

2017年度にはさらにグループ各社の今後の成長や展開を踏まえた上で、多様な人材の活躍に対して正當かつ柔軟に処遇・評価を行うことを目的に人事制度の見直しを行いました。給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と3つの観点と調和した制度で、有資格者や知識の深い社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行いました。2018年度から新たに運用を開始します。

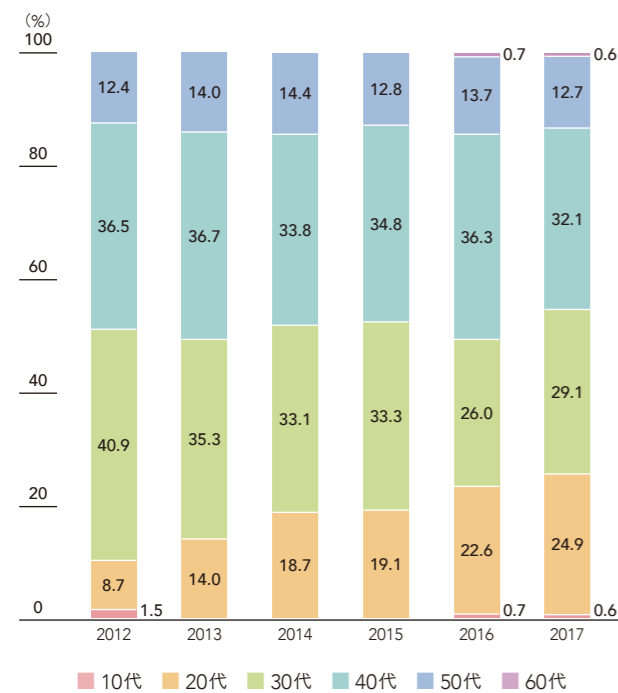
人事制度の変遷



人事関連データ

種類	年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017
社員	(名)	135	136	141	143	145	161
アルバイト	(名)	53	51	55	52	50	57
従業員数	(名)	188	187	196	195	195	218
女性従業員比率(%)		6.5	6.1	9.7	13.6	14.7	15.2
女性役職者比率(%)		9.8	7.9	8.3	8.3	7.9	9.3
社員平均年齢(歳)		40.3	40.0	39.3	39.0	31.3	38.2
社員平均勤続年数(年)		13.1	13.0	12.6	12.2	7.4	8.7
社員離職率(%)		2.9	7.1	6.3	8.7	8.2	7.7

■ 社員の年齢構成比 (%)



公正な評価・処遇

自己評価に基づく面談を実施し、社員が納得できる処遇を重視しています

社員の能力や仕事に取り組む姿勢、成果に応じて評価し、その評価に基づいて適正に処遇する制度を設けています。年に2回、社員が半期を振り返り自己評価した上で、上長が評価し、面談にて課題や来期に期待することなどを話し合います。

これは、半年間の目標を決めてそれに向かって努力すること、社員自身が何を求められているのかを意識すること、評価に見合った処遇をすることを目的としており、納得性の高い評価・処遇となるように努めています。

人事考課者研修

人材育成を通じた組織全体の能力向上をめざし、考課者間の目線合わせを行いました

2018年度からの人事制度改定に伴い、全役職者を対象に人事考課者研修を行いました。半期に一度行っていた人事考課ですが、改めてその制度の目的とステップを再確認し、考課者自身の傾向分析や発生しやすい評価エラーなど具体例を交えて、グループワークを含めた研修を行いました。

さらに普段の上司部下との信頼関係やコミュニケーションも重要なポイントであり、そのうえで、納得性・公正性の高い評価や、育成につながる効果的な面談が有効になるという考え方の共通認識をもっております。



様々な研修受け入れを通じた社員教育

講師となり説明を行うことで、事業をより深く知る機会と活躍の場を提供しています

当グループでは、施設見学やJICA研修、中学生の環境教育の受け入れなどを行っており、すべて自社の若手社員と中堅社員が講師として説明を行っています。そういった取り組みを通じて、より自分が行っている業務や自社についての理解を深めています。(詳細はP.47へ)



人材を創る研修

人材力向上のために、ステータスに応じた各種研修を取り入れています

新人研修として、ビジネスマナーの習得や、廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全及び労働安全に対する意識付けを目的とした社内研修制度を設けています。役職や役割に応じたマネジメントスキルや課題解決力を学ぶ階層別研修、業務知識やスキルを身につける職能別研修を実施し、多くの社員が参加しています。業務フロー研修では、自分たちの行っている業務の棚卸しを行い、見直しすることで業務の効率化を図るきっかけ作りを行いました。

また、キャリアアップの支援として、今後のグッドホールディングスグループを牽引していく次世代の経営幹部候補向けの管理職研修や、次世代の管理職候補者向けのリーダー研修も行っています。自身が感じている課題の共有やグループ討議を通して解決の方向性を考えると共に、リーダーに求められることや、組織に対する責任、部下の管理・育成について学んでいます。



■ 2017年度 研修プログラム

種類	対象者
新入社員研修	新卒入社社員
リーダー研修	係長職、主任職
管理職研修	部長職、課長職、係長職
ブラッシュアップ研修	現業職
	女性社員(一般社員)
営業研修	営業職
業務フロー研修	課長職、係長職、主任職、一般社員

制度にない人事の取り組み

「子連れ出勤」の実施



本人の声 仕事のブランクをあげたくないという私の希望を聞き入れ、早期の仕事復帰を実現していただけて感謝しています。

※「手代よし」…働く人の幸せ・成長を応援する

乳児を預けられる保育園が見つからずに、仕事復帰ができず困っている社員がおり、会社として何か手助けできる手段はないかと検討した結果、「子連れ出勤」を実施しました。制度化されているものではありませんでしたが、本人にとっても会社にとってもメリットがあると判断し、実施することになりました。

事前に、各方面に子連れ出勤について相談をしたところ、「その前にまずは制度をつくりなさい」というのが大方の意見でした。しかし、「制度が出来上がるのを待っているのは、育児休業期間もあけてしまう。今、このタイミングでなければ意味がない」ということで、受け入れる側の社員の意見も聞きつつ、スピーディーに実現に至りました。

実際、赤ちゃんを受け入れてみると、マイナスな面はほとんど現れず、むしろ社員たちは赤ちゃんに触れ合うことができ、喜んでくれていたようでした。

当社の経営理念として掲げている、「手代よし」*が実現できたエピソードであり、今後も従業員からの要望と会社の考えが一致すれば、柔軟に対応できる会社でありたいと考えています。

安心して働ける環境作り

ワーク・ライフ・インテグレート

ライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めています。

特に、従業員のワーク・ライフ・インテグレート（仕事と生活の融合）の実現を重要テーマととらえ、出産や子育て、家族の看護・介護などのライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。配偶者の出産時には3日間の特別休暇制度を設けている他、グッドホールディングス、リヴァックス、リリースでは、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしています。

主な支援制度

制度名	制度の内容	2017年度利用者
産前産後休業制度	出産前及び出産後において一定の期間で休業が可能です	1名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで（最長1歳6ヶ月まで）休業が可能です	1名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	1名 (該当者1名のうち)
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	0名
ボランティア休暇制度	ボランティア活動に従事する社員に2日以内の特別休暇を付与します	0名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	延べ21名

永年勤続者表彰

功績を称え、14名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。

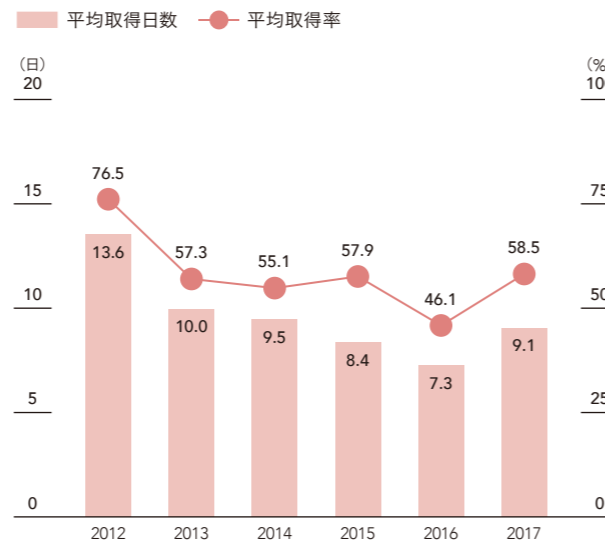
■ グループ6社永年勤続者 (2017年度)

勤続年数	対象人数
30年	1名
20年	8名
10年	5名
計	14名



リヴァックスの永年勤続者表彰

■ 有給休暇取得状況



採用活動

31名が新たに仲間になりました

事業拡大に伴う人員増強として、2017年度は新卒採用者1名、中途採用者24名の仲間を迎え入れました。2018年度入社の新卒採用では、6名が4月に入社しました。

また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2018年度は7名、2017年度は8名のアルバイトを正社員に登用しました。



2018年度入社式

ストレスチェック

職場環境の改善に努めています

大栄では、従業員50名以上の企業に年に一度実施することが義務づけられたストレスチェックを、正社員・アルバイトも含めた61名に対し実施しました。

今後も法令を順守することはもちろん、継続して実施することで、従業員が自分自身のストレス状況に気付くきっかけをつくり、集団的に分析した検査結果を職場環境の改善につなげていきます。

■ 大栄 ストレスチェック 実施概要2017

実施期間：2017/9/4～2017/9/22

対象者	受検者
正社員	42名
嘱託社員	5名
アルバイト	14名
合計	61名

健康診断の実施

健康診断を実施し、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮しています

すべての社員を対象に年に1回（深夜勤務のある社員は半年に1回）健康診断を実施しています。健康診断の結果がC～E判定の社員については、医師に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受けています。

これらの情報を提供し社員の健康管理に対する意識を高めると共に、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなど、健康支援に努めています。

健全な労使関係

より良い労働環境のために労使双方が協力しています

グループ各社の労働組合は、管理職（課長職相当）を除いた社員で構成されており、ユニオンショップ制を採用しています。労働組合と会社経営側の労使交渉は適宜行います。また、大栄においては、アルバイトも含めた全従業員を対象に、定例労使協議会を月に1回開催しています。

労使交渉では、賞与の支給月数をはじめ、交通費の見直しや有給休暇の取得など、様々な議題を検討し、より良い労働環境に近づくよう協力して取り組んでいます。

3S活動の推進

「整理・整頓・清掃」をグループ全体で推進しています

きれいな職場を保つことが労働安全衛生につながるの考えのもと、3S活動（整理・整頓・清掃）を推進しています。

例えば、備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数及び保管場所を決め、誰が見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、様々な手段を講じています。

これらの活動は、安全面だけでなく、仕事に使う備品や道具を探し回すような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。





企業市民として、地域社会との交流や次世代の育成に取り組んでいます

基本的な考え方 | グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考えに基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

活動テーマ	Plan	Do	Check	Action
	2017年度目標	2017年度実績	結果	2018年度目標
リヴァックス ■ 社会に安心、信頼される企業づくり	外部評価の実施	・トップダイアログ開催	○	外部評価の実施
	すべてのステークホルダーから安心、信頼されるための継続的な取り組み	・環境学習の実施 ・CSR報告書の発行	○	継続的な実施
リリーフ ■ 社会に安心、信頼される企業づくり	地域交流の実施	・こども農業塾に参加 ・CSR報告書の発行	○	継続的な実施
	社会活動の実施	・生前整理セミナーの実施	○	継続的な実施
ダイキョウクリーン ■ 社会に安心、信頼される企業づくり	地域社会への貢献	・こども農業塾に参加 ・CSR報告書の発行	○	継続的な実施
大栄 ■ 社会に安心、信頼される企業づくり	地域社会への貢献	・こども農業塾に参加 ・CSR報告書の発行	○	継続的な実施
大協 ■ 社会に安心、信頼される企業づくり	地域交流の実施	・ソフトボール大会に参加 ・自治会地域清掃の参加	○	継続的な実施
	社会活動の実施	・清掃活動の実施(週1回) ・伊丹市内の小学校へサツマイモ苗を寄贈 ・CSR報告書の発行	○	継続的な実施
グッドホールディングス ■ 社会に安心、信頼される企業づくり	地域社会への貢献	・こども農業塾に参加 ・CSR報告書の発行 ・報告書賞への応募	○	継続的な実施

社会貢献活動

施設見学の受け入れ

様々なステークホルダーに公開し、廃棄物処理への理解を促進しています

リヴァックスでは、お取引のある排出事業者様をはじめ、学生や地域の方にも処理施設を公開しています。2017年度は、393名75団体(うち取引外2団体)が見学に来られました。



JICA研修の受け入れ

海外の廃棄物に関する課題解決を支援しています

独立行政法人国際協力機構(JICA)関西では、各国の廃棄物に関わる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修をされています。2017年度は8月と9月、2月に研修員の受け入れに協力しました。リヴァックスでは、バイオマス燃料化事業や処理フローなどについて、大栄では、ごみ収集現場の視察や作業における危険源とそれらの対応策を紹介しました。



インターンシップ生の受け入れ

高校生・大学生の就業体験の場を提供しています

高校生・大学生を対象に、就業体験を通じて社会を知り、自分の将来について考えてもらうことを目的に、インターンシップを行っています。

2017年度は、近畿大学の学生1名を受け入れ、2週間の期間で、現場作業や事務処理などを体験していただきました。



こども農業塾の開催

社員がスタッフとして、子どもたちの農業体験・学習をサポートしています



西宮市内の小学校4年生から6年生を対象に、半年にわたって市内の甲山農地で土づくりや米づくりを体験する「こども農業塾」を行っています。「食」の基となる農業体験を通して、農業の楽しさや作物を育てることの難しさ、自然循環の大切さを学んでもらおうと、2011年度から大栄が主催し、運営事務局のLEAFと協働で開催しています。

2014年度からは、新入社員に対する社員教育の一環として、グループ全体で取り組んでいます。



企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場しています

グッドホールディングスグループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。

以降、関西実業団ヨット選手権で3連覇を達成し、全日本実業団ヨット選手権でも2年連続入賞するなど着実に実績を積み上げています。

また、新たな部員も2名加入したことで、チームとしても盛り上がりを見せており、これからもさらに良い成績をめざすべく、チーム一丸となって取り組みを続けてまいります。

2017年度成績・活動報告

- 7月 関西実業団ヨット選手権
河野・田辺コンビ 2位
森谷・山本コンビ 3位
チーム総合成績 優勝
- 8月 国際スナイプ級関西選手権
森谷・山本コンビ 3位入賞
河野・田辺コンビ 4位入賞
社内試乗会開催
- 9月 全日本実業団ヨット選手権
チーム総合成績 4位入賞
- 10月 第72回国民体育大会
山本優志 石川県代表で出場 12位
- 11月 全日本スナイプ級ヨット選手権
森谷・山本コンビ 35位
河野・田辺コンビ 36位



お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

お客様との接点を増やしています

事業内容やCSRの取り組みをたくさんの方に知っていただくために、グループ各社が様々な展示会に出展しています。

2017年度に出展した主な展示会

開催月	出展者	名称
2017年 5月	ダイキョウクリーン	外食ビジネスウィーク2017
	ダイキョウクリーン	外食ビジネスウィーク2017
8月	リリーフ	エンディング産業展2017
11月	リリーフ	新価値創造展2017
	ダイキョウクリーン	ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO2017



外食ビジネスウィーク2017



エンディング産業展2017

社長ホットラインの設置

お客様の気づきをダイレクトにお伝えいただけます

グッドホールディングスグループでは、より多くの声をお聞きしたいと考え、グループ各社の社長への直通メールフォームを開設し、ホームページにて公開しています。寄せられたお声はすぐに各部門へ共有され、必要であれば改善の指示を行い、より信頼できるサービスをめざしています。

セミナーの開催

お客様や消費者への啓蒙活動に努めています

リヴァックスでは、廃棄物管理に関わる担当者様を対象としたセミナーを開催しています。2017年度は、2月に廃棄物管理に関わる担当者様を対象にBUN環境課題研修事務所 主宰の長岡文明氏をお招きし、「違反事例に学ぶ廃棄物処理法」と題する講演をしていただきました。

リリーフでは、展示会や取引先主催のイベントで講演を行っています。家庭内事故防止の観点から、生前から身のまわりを整理しておくことの大切さについて、お客様の事例を交えて紹介しました。



[リヴァックス]
廃棄物管理者実務セミナー



[リリーフ]
大阪生前整理セミナー

合同慰霊祭の開催

故人様と遺品への想いを大切にしています

リリーフでは、故人様及び遺品に対する供養と慈しみの心を大切に考え、年2回春と秋に合同慰霊祭を開催しています。これは、スタッフが人の死や家族の悲しみに接する中で、遺品にはたくさんの思い出がつまっていると感じ、感謝の気持ちを込めて供養したいという想いから始まりました。

これからも、故人様やご遺族様に寄り添う気持ちを忘れず、誠実に丁寧な対応を心掛けていきます。

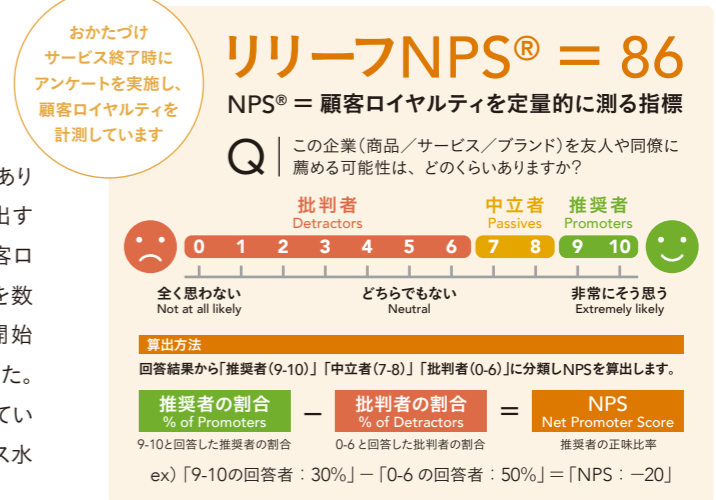


消費者課題への取り組み

NPS®調査を実施

顧客ロイヤルティを図る指標で高評価を獲得しました

「この企業(サービス)を友人に薦める可能性はどれくらいありますか?」という問いに、0点~10点の点数付けから割り出す「NPS®」は、「ネット・プロモーター・スコア」の略で、顧客ロイヤルティ(企業やブランドに対する愛着・信頼の度合い)を数値化する指標です。リリーフでは2014年よりこの調査を開始し、初期調査では61点、4次調査では86点を記録しました。他社サービス業が20点前後なのに対し、高水準を記録しています。本調査を継続して実施することで、リリーフのサービス水準の維持・改善を積極的に行っています。



ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

リヴァックスでは、廃棄物の搬入や処理状況がリアルタイムで確認できるように、施設内にウェブカメラを設置し、ホームページ上でその模様を公開しています。

ウェブカメラの設置箇所は4箇所あり、それぞれ、①廃棄物の搬入・計量場所、②破砕施設の全景、③破砕機の投入口付近*、④乾燥施設の搬入ヤードとなっています。

いつでもどこからでも、処理の様子が確認できるということで、お客様だけでなく近隣地域住民の方々からもご好評をいただいています。



①廃棄物の搬入・計量場所



②破砕施設



③破砕機投入口(限定公開)*



④乾燥施設

*③のカメラは、お客様情報を保護するため、廃棄物を排出されたお客様だけに公開できるようパスワードを設定。

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置するなど、混入防止に努めています

お客様から受託した産業廃棄物は、リヴァックスの処理基準に則り処理可能なものであるか否かによって、分別をお願いしています。

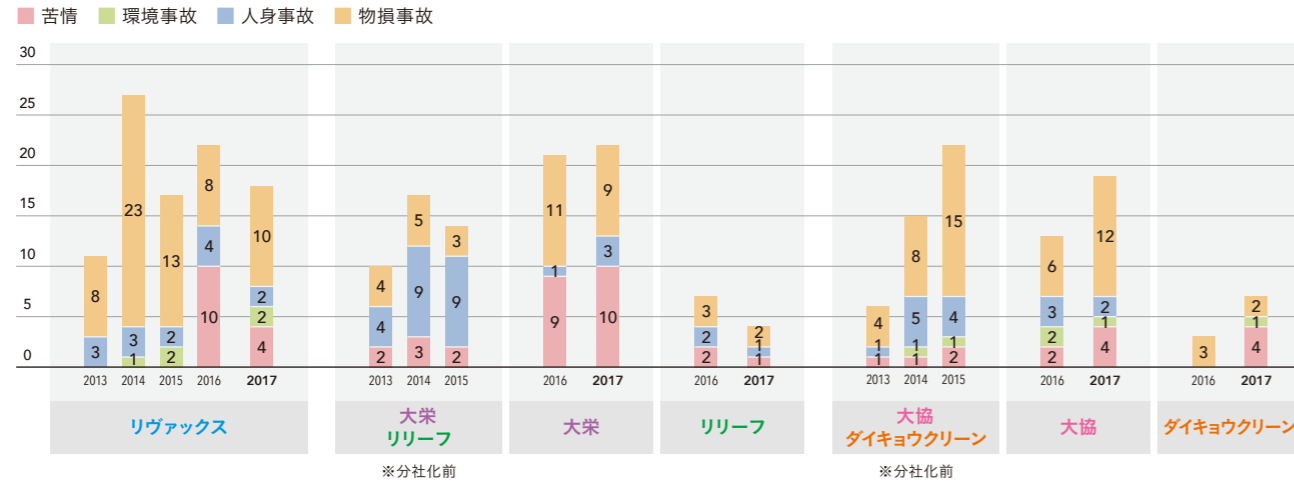
事前の契約とは異なるものが混入されていた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、それが危険物であった場合は、事故や火災の原因になる可能性があります。

これらの混入があった場合は、すみやかにお客様に報告し、再発防止に努めています。また、お客様の事業所に設置しているコンテナ箱に混入禁止物の掲示板を設置するなど、予防にも努めています。



苦情・事故

2017年度の苦情・事故は70件（苦情23件・環境事故4件・事故43件）で、昨年度66件（苦情23件・環境事故2件・事故41件）と比較し、増加しました。



リヴァックス

件数	内容	原因	対策
苦情4件	積荷の荷下ろしを行う際、荷物が車両側壁の一部に接触、荷台の中へ落下し中身が漏洩した	不安定な積荷の状態のままで、荷下ろし作業を行った	ストレッチフィルムを巻くなど荷崩れ防止処置の実施を行う
	お客様より請求書に単価誤りの連絡をいただいた	請求前の最終チェックは行っていたが、従来の確認方法だと間違いに気づくことができなかった	・今後の確認方法に照合を盛り込んだ手順を周知した ・事務所内の所定の場所にチェックシートを掲示した
	社長ホットラインにて「営業の問い合わせ・対応に遅い、問い合わせの電話をかけても出ない」との指摘をいただいた	ホットライン宛てのメールボックスに気づけなかった	・ホットラインからの通知が目立つように設定した ・携帯でも確認できるよう設定を変更した
	紙マニフェストから電子マニフェストへの移行ができておらず、履行状況の照会依頼を受けた	・管理業務に専任できる事務スタッフを付けることができなかった ・社内の情報を共有する仕組みがなく、未対応の状態に気づくことができなかった	・業務を受託のある事業者と同様の事業がないか確認を行う ・管理業務について今後受注しない
環境事故2件	場内で原料搬送コンベア上に設置しているオイルタンクに被せていたウエスから発火した	・自然発火に対する知識が不足していた ・搬送コンベア上まで粉を除去する作業習慣がなかった ・振動部分に発火要因と予測されるものを放置していた	・自然発火が起こりうるものと認識を持ち、ウエスなど発火しやすいものを放置しないよう周知した ・週に1度放置物の点検を実施 ・定期的に木屑や粉の清掃を行う
	場内にて木製チップホッパーより発煙した	・コンベア内の燻りに対する点検・清掃を念入りに行っていなかった ・炉内圧をプラス圧にしていた ・金属の摩擦に対する対策がなかった	・炉内圧の設定を変更 ・シールバルブの板を交換し、気密性を高める ・スタートアップ時の確認手順を追加した
人身事故2件	パレットをまたぐ際に、左足小指を骨折した	狭いところでパレットに乗ったため	事故内容を周知し、注意を喚起した
	荷台から降りる際に段差が分からず飛び降り、捻挫した	飛び降りても大丈夫だと思い込んでしまった	事故内容を周知し、注意を喚起した
物損事故10件	左折出庫時、ハンドルを早く切りすぎて、消火栓と接触した	慣れた場所であったため左側の障害物を目視で確認せずに運転したため	事故内容を周知し、注意を喚起した
	場内でバック車を誘導時、後部がビットシャッターに接触した	・車両誘導に対する明確な手順がなかった ・誘導員のいる右側を確認していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	リフトのブレーキの利きが悪く、止まることができず接触した	ブレーキパイプに亀裂が入り、ブレーキが利かなかった	点検を委託している業者を変更、些細なことでも報告を怠らないよう指示した
	木製チップを荷下ろしするために車両をグランプにさせた際、荷台の上部がシャッターの天井部分に接触した	・木製チップ荷下ろしの際は監視する決まりだったが、その認識が甘く現場を離れたため ・規定の車両停止位置までの誘導を怠った	誘導に対する手順を作成する
	駐車場内のコンテナ車のコボレーンが開いているのに気づかず脱着し、反対側のコボレーンに接触した	脱着目印線に気を取られており、後方確認が不足していた	事故内容を周知し、注意を喚起した
	バックで出庫した際、後方の障害物に接触した	車種に慣れておらず、操作に集中してしまい、バックモニターでの確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
	信号待ちから発進の際、前の車両に接触した	信号が青になっているので、前の車両も動き出すと思いついて進んでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した
	ゲートのチェーンが外れ、誘導員が運転手に指示したが、気づかずにそのままゲートに接触した	・チェーンロックの確認不足 ・声のみの合図だけで誘導した ・バックモニターと助手席側に意識が足りていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
	走行中、左車線を走行していた車両がUターンを行い、ブレーキが間に合わずに接触した	相手ドライバーの確認不足	事故内容を周知し、注意を喚起した
	コンテナ設置の際、アクセルワークを誤り、水道管に接触した	アクセルワークでゆっくり後退することができなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

大栄

件数	内容	原因	対策
苦情10件	ベビーカーのすぐ横で車が止まり、ごみを回収していたので怖い思いをしたと連絡をいただいた	周囲に威圧感を与えるような運転をしてしまった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	交差点手前で車両が車線変更してきたため、急ブレーキを踏み危ない思いをした	前方車線が急に混みだしたので、やむを得ず右へ車線変更をした	当事者のみならず、急な車線変更となるような走行をせず、余裕のある運転を心がけるよう周知した
	ポリバケツに出したごみ袋が破れていたため、ごみが散らかされたままだった	十分な周囲確認ができていなかった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	スピードを出した状態で歩行者の横を車が通り過ぎ、怖い思いをした	周囲に威圧感を与えるような運転をしてしまった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集後、ネットが家の塀にかけられていた	意識して作業ができていなかった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	道路を塞ぐ状態で停車していたため、クラクションを鳴らしたら脱まれていやな思いをした	常に市民の方に見られているという意識が足りなかった	視線や表情等、周囲に与える印象を意識して、行動するように指導した
	ごみの回収中、市民の方の通行を妨げ、威圧的な態度を取った	常に市民の方に見られているという意識が足りなかった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	クラクションを過剰に鳴らしていやな思いをした	周囲に威圧感を与えるような運転をしてしまった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	危険な運転をしていた	本人はそういうつもりはなかった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
	発泡スチロールに入った魚をごみと間違えて収集されたと連絡をいただいた	十分な周囲確認ができていなかった	苦情内容を周知し、注意を喚起した
環境事故0件	-	-	-
人身事故3件	交差点を左折時、自転車と接触しそうになり相手が転倒した	周囲を確認できていなかった	自分の位置をしっかり把握し、周囲の安全確認をしっかり行うよう指導した
	収集中、可燃物を投入する際に、機械の爪が出ているのに気づかず、右足太ももを強打した	足元をよく見ていなかった	作業時に周りの状況を確認し、落ち着いて収集するように指導した
	積込作業中、足を滑らせて転倒し手首の付け根を骨折した	滑りやすい場所での作業の対策が不十分だった	・滑りにくい用具の装着 ・安全確認を徹底するよう指導した
物損事故9件	走行中、交差点左側から進入してきた車に接触した	左右を確認できていなかった	交差点に入る際は左右の安全確認をしっかりと行うよう指導した
	右車線から横転したバイクが近づき、交差点内で接触した	周囲を確認できていなかった	交差点やせまい道では、周囲の安全確認を徹底するように指導した
	誘導員にバックの誘導をしてもらったが電柱に気づかず、接触した	目視での確認が出来ていなかった	声だけでなく目視での安全確認を徹底するように指導した
	収集時、トラックをごみステーションに近づけようと動かしとごみ場に接触した	周囲を確認できていなかった	周囲の安全確認を徹底するように指導した
	敷地内から出る際、パッカーに気づかず右扉に接触した	周囲を確認できていなかった	周囲の安全確認を徹底するように指導した
	ごみステーションに車両を寄せる際、前方に駐車していた車両のそばを通過しようとして接触した	通行できると思い込んでいた	安全が確認できてから車両を動かすように指導した
	対向車が来たため、左に寄ったところ、駐車場のボールに接触した	前後の確認が十分ではなかった	前進でも死角がある場合は、助手を降ろして確認する
	ドアを開けた際、後方からきた自転車に気付かず接触した	後方を確認していなかった	ドアを開ける際は後方、周囲の安全確認をしっかりと行うよう指導した
	収集後、車両発進時に自転車と接触した	左右を確認できていなかった	周囲の安全確認を徹底するように指導した

リリーフ

件数	内容	原因	対策
苦情1件	人工芝撤去の際、防水シートも剥がしてしまい、雨漏りがあったと連絡をいただいた	作業手順、内容等の確認が十分ではなかった	現場ごとの作業手順、内容の確認を徹底するよう指導した
環境事故0件	-	-	-
人身事故1件	不用品の搬出作業中にゴミ袋の中に入っていたガラスで左下腿を切創した	ゴミ袋が体に触れていたのに気付かなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
物損事故2件	会社構内で回収業者の車両が入口に接触した	誘導等が不十分だった	構内を走行する車両に注意を喚起した
	会社構内で駐車時、後方の停車中のトラックに気づかず接触した	後方の安全確認不足	単独で乗車の際は、バック駐車の後方確認を手伝ってもらうよう周知した

大協

件数	内容	原因	対策
苦情4件	お客様先で、タバコを吸いながら構内を運転していたと連絡をいただいた	周知が徹底出来ていなかった	今後、お客様先での喫煙は禁止とする
	収集の際、隣店舗の店先をごみで散らかしてしまった	収集方法により隣店舗前まで影響があったことに気づかなかった	全従業員に別の収集方法を行うように周知した
	ごみ庫の鍵がさしたままになっていた	鍵の抜き忘れを防ぐ対策が取られていなかった	苦情内容を周知し、紐等をつけるなど対策を徹底する
	収集中、すれ違った車と接触しそうになったと指摘をいただいた	周囲の確認を怠った	バックや交差点等、行動を起こす時は一呼吸おき、相手優先で行動するよう周知した
環境事故1件	委託車両から出火した	カセットボンベの混入	クリーンセンターへ空き缶収集で出すように市民の方に周知をお願いした
人身事故2件	助手が車から降りる際、タイヤで足を踏んだ	降車するときに停止せずに発進した	運転手は助手が降りるまで発進しない、助手は降りるまで降りないことを指導した
	帰宅途中で構内のスロープで足を滑らせ転倒、左足を骨折した	・雨で滑りやすい中、手すりを掴んでいなかった ・靴底が減っていた	・急なスロープなど通行する際は必ず手すりを使う ・用具等使用限度を超えたものは使用しない
物損事故12件	収集中、道路わきのフェンスに接触しサイドミラーを破損した	フェンスが傾いている事に気づかなかった	対象物を交わすときは周囲も意識して行動するよう指導した
	バック時に後方の車両に接触した	サイドミラーとバックアイを見ずにバックした	安全確認することはもちろんのこと、バックするときは必ず助手が誘導するように徹底する
	バック時に駐輪場に停車していたバイクに接触した	狭路であったがいけると思った	先方と協議し、今後バイク等があれば事務所に連絡をしてもらう
	後続車に進路を譲ろうと停車し、車を立て直す際にポールに接触した	十分な安全確認ができていなかった	安全確認を徹底することを指導した
	あまり広くない対面通行道路にて対向車と接触、サイドミラーを破損した	すれ違い時の減速不足	狭路で対向車とすれ違う際等、安全確認を徹底することを指導した
	左折時、停車車両に右後方を外輪差で引っかけ、相手方左前方に接触、破損した	十分な安全確認ができていなかった	安全確認を徹底することを指導した
	収集時、車をバックする際に左後方に停車した車両に気づかず、接触した	後方確認不足だった	作業手順の確認を周知し、徹底するよう指導した
	狭い路地を通行中、石柱に接触した	左に寄りすぎたため石柱に接触した	小型車両にてコースを変更した
	収集後、乗車しようとしてドアを開けた際、後方からきた自転車と助手が接触し自転車転倒した	後方の安全確認不足だった	乗車・降車時の後方の安全確認を徹底するよう指導した
	車をバックする際、左後方に雨どいが接触した	・誘導の手順を省略したこと ・後方の安全確認不足だった	バック誘導を必ず行うように指導した
	駐車車両を追い越そうとした際、サイドミラーに接触した	追い越す際に対向車がいたが譲ってくれるだろうと思い込んでしまった	安全確認を徹底することを指導した
	左折時に巻き込み事故をした	周囲の十分な安全確認ができていなかった	巻き込み確認の徹底をするように指導した

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
苦情4件	深夜作業中の音がうるさいと近隣住民の方から連絡をいただいた	住宅に近い場所で作業を行っていた	今後は夕方以降で作業を行うよう周知した
	あらかじめ設定していた到着予定時間より早く着いてしまった	お客様との約束事よりも自社都合を優先してしまった	到着時間厳守を社内にて周知、徹底するよう指導した
	近隣住民の方から作業時のグリストラップのニオイが臭いと連絡をいただいた	グリストラップが汚れすぎている	お客様先に作業日時の事前連絡を行い、近隣住民の方に案内をしていただいた
	作業中にジャバラホースが差し込みきれておらず抜けてしまい、漏水していると連絡をいただいた	作業員の注意不足	・社内周知を徹底 ・作業後の写真の撮影項目を追加
環境事故1件	汚泥の入ったポータブルを運搬中に倒した	・作業員の注意不足 ・危険予知不足	運搬時の障害物の確認を徹底するよう指導した
人身事故0件	-	-	-
物損事故2件	夜間走行中、タイヤ灯スイッチを探して前方不注意になり、走行中の車両に接触した	運転手の注意不足	社内安全説明会を開催し、全社員に周知、注意を喚起した
	車両をバックしたところ、後方のコンテナに接触した	運転手の後方確認不足	事故内容を周知し、注意を喚起した

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P01~04、32~34	6.6.4	責任ある政治的関与	P01~02、32~35
6.3	人権		6.6.5	公正な競争	P01~02、32~35
6.3.3	デューディリジェンス	P01、41	6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P01~08、32~35
6.3.4	人権に関する危機的状況	-	6.6.7	財産権の尊重	-
6.3.5	加担の回避	P41~46	6.7	消費者課題	
6.3.6	苦情解決	P34、41~46、49	6.7.3	公正なマーケティング、事実即した偏りのない情報および公正な契約慣行	P32~36、47~53
6.3.7	差別および社会的弱者	P41~46	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P15~36
6.3.8	市民のおよび政治的権利	P41~46	6.7.5	持続可能な消費	P15~36
6.3.9	経済的、社会的および文化的権利	P41~46	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P23~24、47~54
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P41~46	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	P34
6.4	労働慣行		6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P34、49~50
6.4.3	雇用および雇用関係	P01~02、41~46	6.7.9	教育および意識向上	P36、42~48
6.4.4	労働条件および社会的保護	P41~46	6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.4.5	社会対話	P32~36、41~46	6.8.3	コミュニティへの参画	P05~06、27~30、47~50
6.4.6	労働における安全衛生	P41~46	6.8.4	教育および文化	P24、41~44、47~48
6.4.7	職場における人材育成および訓練	P42~44	6.8.5	雇用創出および技能開発	P11~14、41~46
6.5	環境		6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P15~18
6.5.3	汚染の予防	P19~22、37~40	6.8.7	富および所得の創出	P27~30
6.5.4	持続可能な資源の利用	P04~08、19~22、37~40	6.8.8	健康	P19~22、37~40
6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P37~40	6.8.9	社会的投資	P47~50
6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生態地の回復	-			
6.6	公正な事業慣行				
6.6.3	汚職防止	P01~02、32~35			

▶ **編集方針** お客様、地域住民の方々、従業員などステークホルダーのみなさまに、グッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長や企業価値の向上への取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう、サステナビリティレポートを発行いたしました。本年度は、2018年4月に入社した新入社員による制作を試み、「新人目線で当社グループを捉え、分かりやすくお伝えする」ことをテーマに何度もミーティングを重ねました。さらに、グループの事業と社会課題との関係やCSR活動の取り組みについての理解を深めつつ、新しい視点とアイデアを込めた報告書をステークホルダーのみなさまにお届けしたいとの想いで制作いたしました。なお、本報告書ではISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目からそれぞれグッドホールディングスグループに関連のある項目を整理し、「経営・ガバナンス(①組織統治、⑤公正な事業慣行)」「環境(④環境)」「人権・労働慣行(②人権、③労働慣行)」「コミュニケーション(⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及びコミュニティの発展)」の4項目で編集しています。

▶ **対象組織** グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄、株式会社大協(本報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としています)

▶ **対象期間** 2017年度(2017年4月~2018年3月) ※活動内容に一部、2018年度を含む。

▶ **発行月** 2018年10月(次回:2019年10月予定)

▶ **対象分野** 事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

▶ **参考ガイドライン** 社会的責任に関する国際規格「ISO26000」/ GRIガイドライン第4版/ 環境省「環境報告ガイドライン」



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 CSR推進部

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町14-5 太陽生命西宮ビル3階

TEL : 0798-47-7704 E-mail : csr@goodhd.co.jp

